

(文部科学省平成27年度委託事業)

総合的な教師力向上のための調査研究事業

「初任者研修の抜本的な改革」

成果報告書

平成28年3月
岐阜県教育委員会



1 調査研究の目的

岐阜県の小中学校では、教職員の団塊世代の大量退職による大量採用により、今後10年間で教職員のおよそ3分の1が退職し、新規採用者と交代する。初任者であっても教員として高い指導力が求められており、若手教員の資質の向上は喫緊の課題となっている。岐阜県では、初任者研修、2年目研修、3年目研修、4年目研修、6年目研修を位置付け、切れ目のない研修プログラムを作成し、教員一人一人のキャリアに応じた研修ができるようにしている。

このプログラムにおいて、初任者研修は教員として成長する上で非常に大切な時期に「実践的な指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を身に付ける」ことを目的として実施される重要かつ意義深い研修である。とりわけ各学校において実施される校内研修の充実を図ることは大変重要である。

現在、初任者研修は各市町（組合）教育委員会・各学校の積極的な取組により一定の成果を上げている。一方、特に小学校では初任者が学級担任となっており、負担が過重になっている場合があったり、拠点校指導教員1人当たり3人～7人の複数校にわたる初任者を指導するため、初任者の日常の状況が十分把握できていない場合があったりする等の課題もある。

こうした課題に対して、管理職の指導の下、初任者研修の担当者等が中心となり、学校全体で初任者を指導する継続的な体制を構築することや、初任者を指導教員の学級の副担任等として配置することにより、初任者自身が研修を受けやすい体制を構築することで、学校全体で初任者を含めた若手教員を指導する意識の醸成の促進、体制の確立、また、個々の初任者の実態に応じた研修の充実等が図られ、初任者研修全体の質の向上につながるものと考ええる。

本事業では、今後、初任者研修を抜本的に改革していく際の貴重な取組と考えており、上記のような体制による初任者研修について、その成果や課題等を明らかにすることを図るための取組を調査研究する。

2 調査研究の内容

- (1) 学校の選定等
- (2) 研修等の内容の見直し
- (3) 初任者の評価
- (4) 調査研究方式と拠点校方式の比較
 - ・調査研究方式と現行の方式（拠点校方式、自校方式）との比較

3 調査研究の具体的な内容・取組方法及び成果と課題

(1) 学校の選定等【各調査研究校訪問時の聞き取り及び調査研究校連絡会議等における実践報告による】

①初任者を複数配置できる規模の学校で調査研究を行う。

【平成27年度調査研究校】(各校実践報告書による)

学校名	児童生徒数 (人)	学級数 (学級)	学校名	児童生徒数 (人)	学級数 (学級)
岐阜市立本荘小学校	594	21	岐阜市立長良西小学校	745	27
岐阜市立島小学校	649	23	岐阜市立長良東小学校	720	23
岐阜市立三里小学校	782	25	岐阜市立精華中学校	720	22
岐阜市立茜部小学校	829	26	羽島市立竹鼻小学校	763	26
岐阜市立市橋小学校	777	28	羽島市立中央小学校	836	27

【成果】

- 継続的に初任者を配置している学校、断続的に初任者を複数配置している学校において、いずれの学校でも実施は可能である。
- 年齢の近い若手教員が勤務している学校が望ましい。

- ・継続的に初任者を複数配置している学校において、昨年度の対象者である2年目の職員が本年度の対象者である初任者に対して、昨年度の経験を踏まえ主体的に関わる等、精神的な面での支えとなる存在である。
- ・継続的に初任者を複数配置されているため、メンターチームが組織しやすい。

②初任者を継続的に配置し、現行初任者研修方式との比較検討を行うことができる学校を選定する。

【成果】

- 校内において、校内指導教員が初任者に関わる機会が増え、従来と比較し、信頼関係を基盤とした指導が可能となった。また、学校全職員の初任者を含む若手教員を育成する意識が生まれ、若手教員への積極的な関わりが多くなった。(図1)

- ・調査研究校管理職のマネジメントにより、学校全職員に初任者を含む若手教員を育成することの理解を互いに深め合う機会を設定した。
- ・拠点校指導教員に初任者指導を委ねてしまうのではなく、校内指導教員が初任者の実態を常に把握し、実態に応じた指導、支援に当たることへの意識が一層高まり、継続した指導につながった。
- ・初任者にとって、指示・指導等の系統が校内指導教員からと一本化され、一貫した指導を受けることができた。また、調査研究校管理職が全職員で育成することを職員に伝えているため、初任者は校内指導教員に限らず、他の職員にも質問したり、相談したりすることができることに安心感をもち、質問できた。

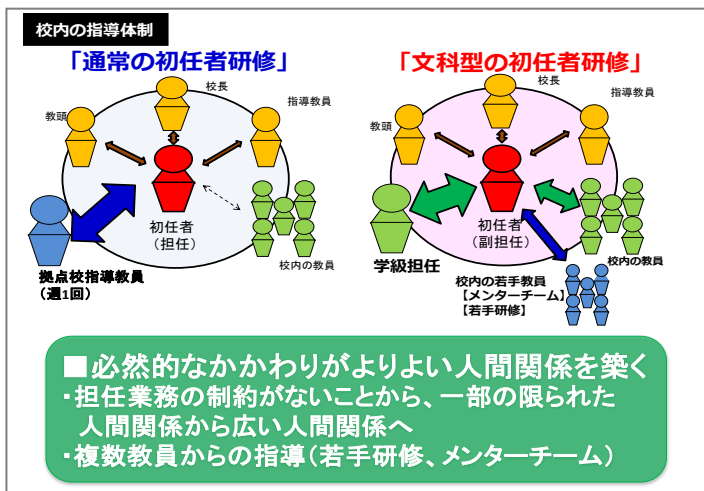


図1 管理職のマネジメントによる校内の指導体制の構築

【課題】

■ 生徒指導上の対応等、突発的な事案が生じた際、計画した研修が計画通りに行うことができない場合がある。

・拠点校指導方式は計画に沿い、学校の諸事情に左右されることなく終日に渡っての指導、支援が可能である。一方、校内指導教員による研修は、生徒指導上の諸問題が発生すると、学級担任外の全教職員で対応に当たる必要が生じるため、初任者指導はやむを得ず日時変更することになることが起こり、意図的・計画的な研修の実施という面では課題がある。

また、本年度、岐阜県の初任者に対して次の質問をし、図2及び図3の回答を得た。

◇今年度受けた研修の中で、あなたにとって特に役に立ったと考えられる研修を答えて下さい。
 ※優先順位を付け7項目の中から2項目まで選択可

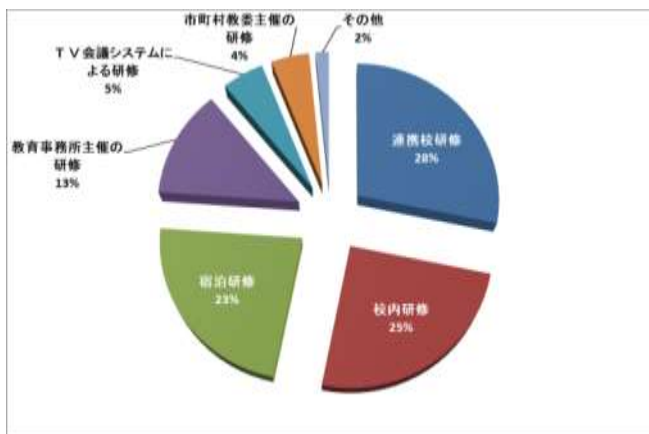


図2 特に役に立ったと考えられる研修

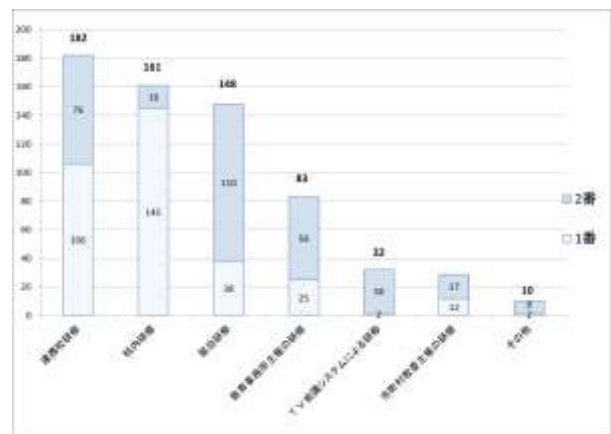


図3 特に役に立ったと考えられる研修【優先順位】

結果

- ・初任者の4人に1人が特に役に立った研修として連携校研修と校内研修を挙げている。
- ・44%の初任者が一番役に立った研修として校内研修を挙げている。

分析

- ・連携校研修については、前述した成果、及び岐阜県の連携校研修の内容として各学校において示範授業、研究授業、授業研究会が必ず位置付いており、初任者にとって実践を通して具体的に学ぶことができるという点等からの結果であると考えられる。
- ・校内研修については、一番役に立ったとの回答の割合も多いことから、前述した成果とともに、目の前にいる児童生徒の実態を踏まえた具体的且つ実践的な研修であるという点等からの結果であると考えられる。

次年度

- ◆初任者にとって学ぶ意義がもてる研修となるように、各研修における成果を各研修相互に関連付け、還元させる必要がある。

大学関係者の指導・助言

■ 配置から研修まで事業を一体的に進める必要がある。

- ・文科省調査研究事業の成果として、以下の2点を把握することができた。
 - (1) 様々な機会を通して、初任者が1年目に人間関係づくりをし、その人間関係が2年目以降の基盤となり職務に専念できる。
 - (2) 実践者の授業等を通して、授業の形式だけではなく、児童生徒理解、個別指導の在り方、きめ細かな指導につながる。
- ・指導と管理の一体化と言われるが、**本事業での試行によって研修事業の充実を図るのであれば、配置も含め教育研修課が意図的に行うべきではないか。**

■ 採用、配置についての配慮

- ・岐阜県においても初任者が早い時期に赴任校が分かるよう改善が必要である。
→3月中の早い時期に赴任校の管理職と初任者が懇談し、4月に向けての準備等、時間をかけて進めている県もある。(環境等の大きな変化を伴う分、少しでも心の準備ができるような配慮を)
- ・学級担任をもつ初任者は自宅から通勤できるような範囲とする等の配慮を考えて欲しい。
→家族からのメンタル面や健康面でのサポートが欠かせない現状がある。

(2) 研修内容の見直し【各調査研究校訪問時の聞き取り及び調査研究校連絡会議等における実践報告による】

- ①現行の校内初任者研修年間計画を基盤としながら実施し、研修内容や方法の見直しを図る。

【成果】

- 現行校内初任者研修計画に基づき、初任者の実態や初任者の要望、次年度への接続を踏まえ現行校内初任者研修計画の研修内容や方法を見直し修正を重ねたことにより、初任者にとって充実した研修となった。**

- ・現行の校内初任者研修年間計画に基づき実施したが、各調査研究校において不都合が生じることはなかった。
- ・調査研究校管理職が、年度当初、学校全職員で初任者を含め若手教員を育成することの理解を相互に図る場を設定したことにより、とりわけ昨年度から継続して取組んでいる調査研究校において、昨年度以上に校内指導教員や初任者所属学年職員だけでなく、全職員に校内初任者研修を依頼する等、初任者にとっても、他の職員にとっても意義のある機会となった。管理職が学校のマネジメントを進める上でも、有効であった。

今後、研修内容の充実を図る上で、本年度実施した次の質問に関わる結果(図4)との関連を図り研修内容等の構想を図る必要がある。

◇今年度受けた研修の中で、あなたにとって特に役に立ったと考えられる内容を答えて下さい。
※2項目まで選択可

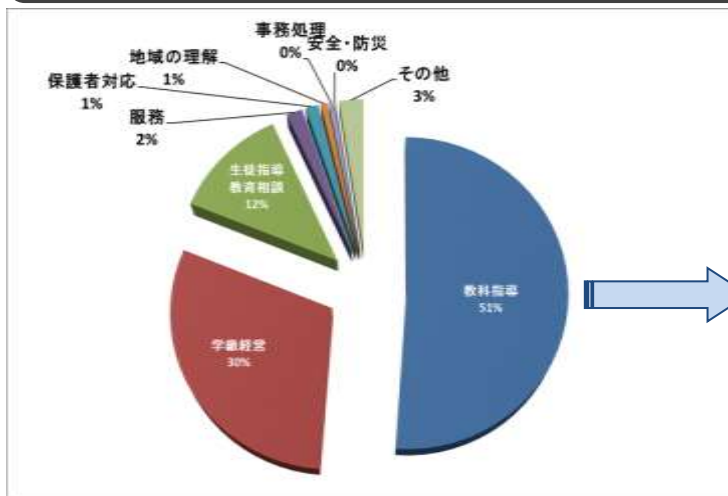


図4 特に役に立ったと考えられる内容



結果

- ・初任者の2人に1人が特に役に立った内容として教科指導を挙げている。
- ・学級経営に関わる内容についても30%の初任者が役に立ったと挙げている。(図4)

分析

- ・日々の教科指導があり、教科指導に関わる研修は必要不可欠である。また、その基盤として学級経営については初任者にとって必要感のある内容である。
- ・初任者は「授業後、すぐに具体的な児童生徒の姿や自身の指導について指導を受けることができ、次時の授業の改善につながることができた。成果を実感することができた。」等の振り返りをしている。機を逃すことなく、校内で具体的な指導がなされることにより、初任者自身も改善点が明確になり、次の授業ですぐに改善できるという利点があると考えられる。

また、調査研究校から、学級担任をもたない初任者に対して、次年度への接続を配慮し、担任をもたない初任者の育成プラン（学級担任業務移行計画）を立案し、計画的に初任者の育成を図っているとの実践報告もある。

【成果】

- 1年目に学級担任をもたない初任者の業務を徐々に移行していくことにより、2年目に向け意欲をもつとともに、自信にもつながった。また、具体的な方途について、その意味を理解し、実践することにもつながった。

- ・年度後半から、少しずつ担任業務を移行しているため、学級担任が常に行動を共にし、適時支援することができ、初任者は安心して担任業務を行うことができた。
- ・担任業務の移行に向けて、早い段階から自覚をもたせるために、学級懇談会等にも参加させる等、次年度に向けての研修が計画的に実施された。

次年度

- ◆初任者にとって学ぶ意義がもてる研修となるように、計画した研修内容や方法をそのまま進めるのではなく、初任者の実態やニーズにも応じながら、毎年見直しを図る必要がある。
- ◆県として把握した実態について、県内に情報提供し、基本的な内容としてどの初任者にも設定しなければならない内容と実態を踏まえて設定する内容とを、明確にしなが研修を構築する必要がある。

大学関係者の指導・助言

■管理職がリーダーになりマネジメントしなければ、教員は育たない。

- ・文部科学省が示している新たな初任者研修の実施例以外にも岐阜県には様々な実践がある。地域での実践者を巻き込んだ実践もある。拠点校指導教員や初任者指導教員に任せてしまう管理職の意識が課題である。教員を育てるには、管理職が自覚をもって指導しなくてはならない。
- ・小・中学校の教員は各市町村に配置される。初任者に限らず教員を育てることについて、市町村教育委員会も主体的な取組が必要である。

■学生の現状把握をもとにした初任者の育成

- ・大学では4月から即戦力となるよう4年生において卒業論文だけでなく、「教職実践研修」を実施しており、教育実習後もインターンシップとして3分の2程度の学生が、小・中学校において研修を行っている。
- ・担任をもつことを想定し、「4月の学級開きで何をするか」など、学校現場ですぐに生かすことのできる内容の講義も設定している。
- ・学生は教員になるにあたり、主に次の4つのことについて不安がある。
①学級担任として自分でやっていけるかどうか ②授業 ③環境の変化 ④人間関係

(3) 初任者の評価【各調査研究校訪問時の聞き取り及び調査研究校連絡会議等における実践報告による】

- ①形成的評価を大切にし、指導教員と初任者が配置された学級担任が主体となり継続的に行う。

【成果】

- 初任者が配置された学級担任は、学級担任をもたない初任者と常にコミュニケーションを図り、行動を共にするよう努めたことにより、一つ一つの指導について適時評価し、指導することができた。また、一方的な指導ではなく、指導に対する意義や目的を考えさせる等、学級担任としての主体性を育むよう指導がなされた。

- ・全校体制の中で、特に学級担任を中心とした学年のチームが、初任者に対して、過度な負担のない程度に学年全体に関われるような役割をもたせる等、調査研究校管理職の指導の下、意図をもち役割をもたせた。
- ・学級担任や若手教員に相談できる体制が整っているため、事前実験等や教材研究を十分に行い、授業に臨むことができた。学級担任をもたない初任者は、準備の段階から授業後まで、適時指導や助言を受けることができ、成果や課題が明らかになり、教科指導の力がついてきている。
- ・学級担任から、適切な指導をその場で受けることができること、また、学級担任が常に支援できる体制であることから、安心して勤務し、教員としての指導力も向上している。

岐阜県では次のような内容について採用から3年間継続して自己評価をし、それをもとに管理職との面談を行っている。

自己評価票（3年間で目指す教師像）15の項目

【教科指導】	【学級経営】	【社会人】
①教材研究	⑥児童生徒からの信頼	⑪事務処理
②目標の明確化	⑦朝・帰りの会	⑫相談
③板書	⑧道徳・特活	⑬残業・健康
④個に応じた指導	⑨いじめ・安全	⑭校務分掌
⑤学び合い	⑩保護者	⑮社会人

通常の初任者研修を受けている教員（以下「初任研」）と調査研究校に所属し初任者研修を受けている教員（以下「文科型」）との自己評価について、教科指導に関わる結果（図5）は次のようである。前述した成果について、自己評価の結果からも把握することができる。

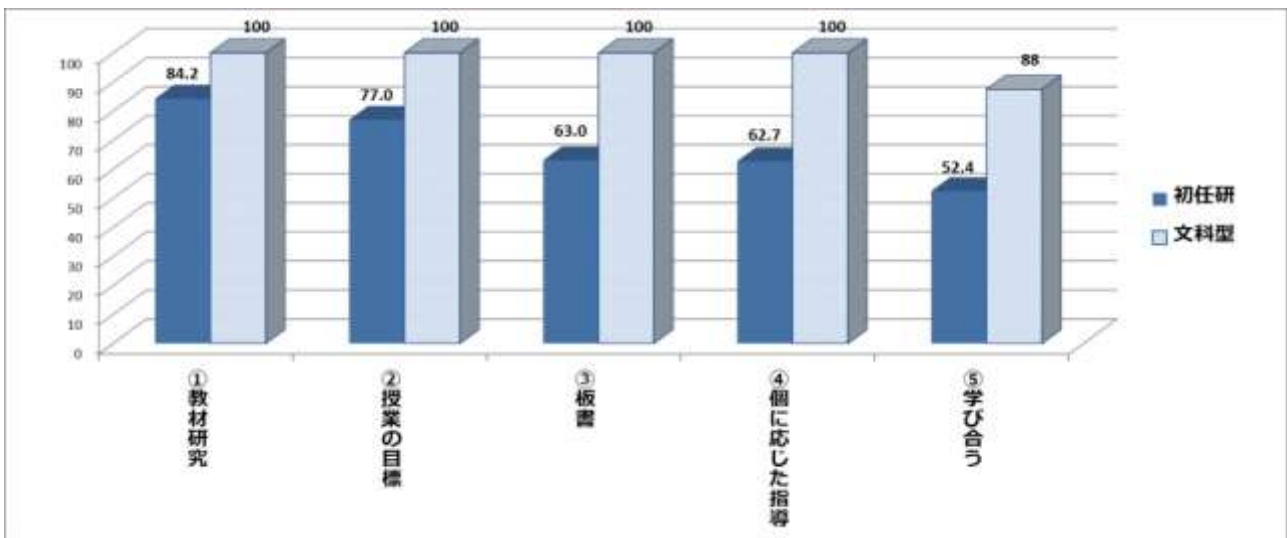


図5 教科指導における自己評価【「どちらかというと思う」+「そう思う」という割合の比較】

一方、次の点は【課題】として考えている。図6は、学級経営に関わる項目⑩の結果である。

◇児童生徒に係る情報を保護者と共有し、保護者の思いを受け止めようとしているか。

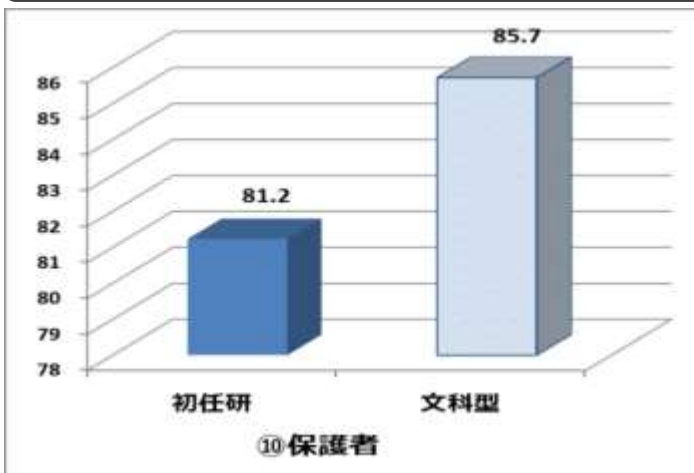


図6 学級経営における自己評価

【「どちらかというと思う」+「そう思う」という割合の比較】

結果

・他の項目と比較し、保護者への対応に関わる内容については、初任研との差異が大きくない。（+4.5P）

分析

・保護者への対応や生徒指導上の対応等については、研修内容に設定するものの、教科指導のように繰り返し実践を重ねる機会が得られないこと、実践的な経験を学級担任のようにできないこと等からの結果であると考え。

→上記については、各調査研究校からも課題として挙げられている内容である。

次年度

- ◆初任者にとって保護者への対応や生徒指導上の対応について、研修や経験を通して学ぶことは重要であると考え。OJTにおける研修を意図的・計画的に行う必要がある。
- ◆研修の成果は学級担任としての勤務等を見届けなければ判断できない。
→次年度、継続して調査研究を実施する学校については、2年目教員の勤務について聞き取り調査等を行う必要がある。

■このシステム（組織）を通して、初任者に得意技をもたせる。

- ・初任者の負担が過度にならぬよう配慮されている。初任者がどのように受け止めているか、受け止める側の初任者の心情も踏まえて実践をお願いしたい。
- ・担任をどの学年でもたせるのか。2・3年生が多いが、この時期から子どもに様々な問題が出てくることを考えると、所属学年などについても配慮する必要がある。
- ・負担軽減と指導力の向上と、両面から考える必要がある。負担軽減だけで教師力の向上になるのか。システムを整えることも大切であるが、この時期であるならば、この組織を通して初任者に得意技を（誰にも負けない力）付けさせたか報告して欲しい。どういう力をつけるのか。

(4) 調査研究方式 << (1) 記載以外の内容 >>

①初任者が学級担任をもたない。

【成果】

- 初任者の負担軽減だけでなく、学級担任ではできない経験を積んだり、指導の意義や目的について考察したりする等、次年度への見通しをもつとともに、学級担任をすることに意欲をもつことにもつながった。

[初任者の感想：調査研究校の実践報告参照]

- ・学級担任の様子から学級開きや保護者懇談会等について具体的に学ぶことができただけでなく、学級担任自身が悩んだり、試行錯誤したりすることも含め、じっくり見て考えて学ぶことができることに意義があった。
- ・学級担任だけではなく、他の職員と関わる機会が多くあるため、人間関係を築くことにもつながった。他の職員にとっても、初任者に限らず若手教員をも含め、実践を通して育成しようとする意識が高まり、チーム学校としての醸成が図られた。

【課題】

- 学級担任をもたない初任者にも、学級担任をもつ初任者にも継続して配慮する。
- 保護者の理解を得て実施することに配慮する。

- ・小学校教諭を目指した時点から、学級担任として勤めることに夢を描いている初任者に対して、十分に説明はしたが、初任者にとって挫折感にも似た感情を抱くことがある。
- ・校外初任者研修で、学級担任をもつ同期の仲間との距離感を感じることもある。
- ・学級担任からマンツーマンで指導される同僚である初任者をうらやましいと感じることがある。
- ・保護者の中には、若手常勤講師が学級担任をしているのに、正規採用の初任者が学級担任をもたないことへの戸惑いを感じられる方もいる。

次年度

- ◆学級担任がないからこそ、学級担任があるからこそ学ぶこと、経験できることを具体的に説明することを継続して行う。また、学校全職員に初任者を含む若手教員を育成することの理解を互いに深め合う機会を継続して設定する。
- ◆年度当初のPTA総会や学年・学級懇談会等、機を生かし調査研究方式について説明を継続して行う。

調査研究実践報告書

【市教育委員会】

- 岐阜市教育委員会
- 羽島市教育委員会

【調査研究校】

- 岐阜市立本荘小学校
- 岐阜市立島小学校
- 岐阜市立三里小学校
- 岐阜市立茜部小学校
- 岐阜市立市橋小学校
- 岐阜市立長良西小学校
- 岐阜市立長良東小学校
- 岐阜市立精華中学校
- 羽島市立竹鼻小学校
- 羽島市立中央小学校



1 取組の具体

(1) 岐阜市教育委員会の取組の充実

□近隣の初任者配置校との連携について

年間2回の初任者指導教員等連絡協議会における実践交流

<内 容>

- ・初任者指導教員等連絡協議会において、4つの方式（拠点校方式、一人方式、校内推進方式、スタートアップ方式）ごとにグルーピングし、それぞれの実態に応じた実践交流ができる場を年に2回、提供した。

工夫点及び配慮点

◇初任者指導の在り方について方式ごとに交流することにより、具体的な指導の手立てや方法など、実態に応じた今後の見通しをもつことができた。特に校内推進方式については、2年連続の配置校に前年度までの実績を伝えてもらい、この方式が初めての学校にとって、大変貴重な交流の場となった。また、第2回の実践交流会では、実際に初任者研修を進める上での具体的な課題や成果について交流した。よりよい初任者研修の在り方について、多くの情報を共有することができた。

◇指定校だけの実践とならぬように、本事業について市内の全ての担当者に趣旨等を説明した。

□教科等指導員制度の活用について

教科等指導員制度について

<内 容>

- ・市教委が市内全ての学校長に教科・領域の教科等指導員の推薦を依頼した。
- ・市教委が教科等指導員をまとめ、各校へ紹介した。
- ・教科等指導員は各学校の要請に基づき、教材教具の開発や授業づくりについて助言したり、研究会に助言者として参加したりして指導にあたった。

工夫点及び配慮点

◇教科等指導員による授業研究を初任者研修（校外・校内）に取り入れることにより、初任者の授業力アップを図った。校内推進方式による校内研修の負担を軽減するほか、研修内容の充実にもつながっている。また、初任者が教科指導で困ったとき、タイムリーに相談できるような関係も築かれつつある。

2 取組の成果と課題及び2年目となる教員の勤務状況

【成果】

- 初任者を2人配置することにより、初任者同士がお互いの悩みを共有するなど、メンタル面でのサポート効果が高い。
- 若手を中心としたメンターチームや経年研修のクロス化を導入することで、初任者だけでなく、若手や中堅教師などのスキルアップにつながっている。
- 副担任の初任者に対し、段階的に学級担任業務を任せていくことで、2年目から自信と見通しをもった学級経営をすることが可能となる。
- 拠点校方式では、拠点校指導教員の訪問回数（週に1日程度）、教科や校種の違い等から初任者の実態把握や指導が十分でない場合がある。しかし、校内推進方式では、初任者の実態に応じて、複数の教員によるきめ細やかな指導を行うことができる。
- 校内推進方式では、調査加配教員が配置されるため、初任者指導教員や初任者配置学級担任の負担軽減となっている。（授業補充、業務補充）
- 初任者校内研修では、一人一人の実態をふまえながら初任者2名一緒に一般指導を実施したり、お互いの授業を見合って授業研究を行ったりするなど指導方法を工夫することで、指導者の負担軽減や指導内容の充実につながっている。

【課題】

△一人は担任もう一人は副担任ということで、「なぜ、自分が担任なのか」とか「なぜ、担任をもてないのか」と、それぞれの立場で悩むことがあった。年度当初に、それぞれの役割や一年間の見通しについて管理職等から説明することが望ましい。

3 添付資料

【教科等指導員による研修後の初任者の感想】

教科等指導員の先生から、多くのことを教えていただき大変意義のある研修となった。本校は、校内推進方式のため、同じ学校に2名の初任者が配置されている。心強い反面、「理科」を専門とする初任者が岐阜市の小学校で自分一人のみということで不安もあった。しかし、今日、教科等指導員の先生と話をする中で、どんどん不安が消え、授業をつくる喜びを感じながら研修に臨むことができた。（後略）



1 取組の具体

(1) 羽島市教育委員会の取組の充実

□近隣の初任者配置校との連携について

市教育委員会が連携校研修を企画運営

- <内 容> ・市教委が中心となって指定校の初任者について連携校研修を企画運営する。
・市教委担当者が連携校研修における研究授業及び授業研究会において、校内指導教諭とともに初任者の指導にあたる。

工夫点及び配慮点

- ◇指定校の校内指導教員と連携を図り、初任者の実態にあった指導・助言を行えるようにする。
◇近隣の初任者配置校とも連携を図りながら、指定校や近隣校の初任者の実態に合った研修が行えるよう配慮する。

□指導力向上のための研修の実施について

市教育委員会がホープ教員研修（イブニング研修）を企画実施

- <内 容> ・市教委主催の若手教員指導力向上研修（ホープ教員研修）を実施する。
・市教委指導主事が中心となり、初任者及び若手教員を指導する。

工夫点及び配慮点

- ◇教員としての心構え、学級経営、生徒指導、特別支援教育等、初任者や若手教員に特に必要な内容に重点を絞って研修を行う。
◇研修内容の充実を図るため、講座の中で学びたい内容のアンケートを実施し、アンケートの結果を研修内容へ生かし、研修の充実を図る。

2 取組の成果と課題及び2年目となる教員の勤務状況

【成果】

- 市教委担当が校内指導教諭と連携して初任者の指導にあたることで、初任者の実態に即した充実した研修を実施することができた。
- 初任者の必要とする内容を精選して指導力向上のための研修を実施することで、初任者がすぐに日々の実践に生かすことができる研修を実施することができた。
- 2年目教員の多くは、連携校研修や指導力向上のための研修で学んだことを生かし、児童生徒が分かりやすい授業を展開することができている。

【課題】

- △文科型、岐阜県型の初任者については市教委担当がイニシアチブをとって連携校研修を実施できたが、その他の初任者については、市教委担当が十分に直接関わるができなかった。
- △指導力向上のための研修を年8回、金曜日の勤務時間後に実施しているため、学校が忙しい時期は特に初任者教員にとっては負担となることが考えられる。

1 調査研究校の概況

学校名(校長名)	岐阜市立 本荘 小学校 (校長：宇野 芳弘)								
常勤教員数	28人	内：学級担任以外教員数 (人)							
非常勤講師数	2人	*常勤・非常勤講師共に市費負担職員は含まない。							
学級数	21学級	内：特別支援学級数 (2学級)							
初任者数	2人	内：学級担任でない初任者数 (1人)							
2年目教員数	2人	内：採用前講師経験者 (1人)							
3年目教員数	1人	内：採用前講師経験者 (人)							
4年目教員数	0人	内：採用前講師経験者 (人)							
5年目教員数	0人	内：採用前講師経験者 (人)							
6年目教員数	0人	内：採用前講師経験者 (人)							
初任者指導教員	教務主任								
児童生徒数	学級数及び児童生徒数								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
	学級数	3	3	4	3	3	3	2(チ・ピ)	21
児童生徒数	90	89	118	102	89	99	5(チ) 2(ピ)	594	

2 初任者勤務状況

初任者(年齢・性別)	初任者A (23・女)	初任者B (26・女)
採用前の状況	<input type="checkbox"/> 新規学卒者	<input type="checkbox"/> 既卒者 講師経験あり(3年)
所有免許	小1・中1(社会)・高1(社会)	小1・中1(英語)・高1(英語)
校務分掌	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任ではない →2年3組副担任	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任 →2年2組学級担任
	・算数少人数指導→4年生 ・生活づくり指導部	・英語推進委員長 ・学びづくり指導部

3 取組の具体

(1) 初任者研修の実施体制の充実

□学校全体で指導する体制の整備の在り方

本荘小 全職員で初任者を育てる

<体制> 児童の発達段階を踏まえた指導について研修ができるように、全学年・全学級で示範授業を行う体制を整える。

<内容> ・上記の研修について年間の早い時期に全学年・全学級で示範授業が行えるよう、計画的に実施した。

・上記の研修により、初任者の実態を把握し、後期は2人の初任者のニーズや実態に応じ、専門的な内容を学ぶ機会を設定した。

(総合的な学習、高学年の理科・体育・音楽・家庭科)

工夫点及び配慮点

◇初任者が小学校の特性である「発達段階を踏まえた指導」を学ぶことの重要性を全職員に周知し理解を得るとともに、若手育成を通して全職員の指導力向上をねらい、研修を実施した。

(具体) 示範授業参観後、授業者にお礼を言うとともに、質問をする。

①指導場面の意図性。②授業者の専門教科の指導に関すること。

⇒ 次回の校内初任者研修で交流 ⇒ 職員打合せで伝達

◇初任者2人が研修している際、初任者(担任)が安心して学級を任せられることができるように、必ず調査研究加配教員(生徒指導主事)が後補充に入るようにした。

◇初任者以外の都合で研修ができなくなる場合は、基本的に別日に振り替え、研修時間を確保する。

□初任者の負担軽減の方策

本荘小 同僚性と研修の効率に配慮した意図的な学年所属

<所属学年> 2人の初任者を同学年に所属させる。

※A(副担任)及びB(担任)ともに第2学年所属

工夫点及び配慮点

◇初任者2人を同学年にすることで、学年会を利用するなど研修時間の確保を容易にした。

◇2人の初任者が互いに高め合えるように、同じテーマで研修を実施し、副担任の不安を解消した。

※週6時間の研修のうち、4時間を一緒に行う。指導者としても負担が少なくなる。

◇2年生に配属することにより、6時間目の研修が可能になり、初任者の負担を軽減することができる。

(2) 初任者研修の研修内容等の充実

□初任者の年間の勤務としての適切な在り方

本荘小 業務移行計画

<内容> ・副担任の業務移行計画(担任への)を作成し、研修を生かし、スムーズに業務に当たることができるようにする。

工夫点及び配慮点

◇保護者対応等、対応が容易ではない事案への対応については、OJTを踏まえた研修を実施した。

◇副担任に業務移行計画について説明し、1年間の見通しがもてるようにした。

◇移行計画にしたがって、特に注意深く観察する担任業務の視点を、事前に示すようにした。

4 取組の成果と課題及び2年目となる教員の勤務状況

【成果】

- 加配教員が後補充に入ることが可能なため、初任者研修を確実に実施することができた。
- 2年生に配属することにより、6時間目の研修が可能になり、初任者の負担を軽減することができた。
- 同じ学年に配属したことにより、タイムリーに同じ研修テーマを設定することができた。意見交流にも深まりが出た。
- 2年継続の事業であったため、特に今年度は、メンターチームが組織しやすかった。また、副担任経験者もいたので、初任者Aのよき相談相手となることができた。
- 初任者Aは、担任の学級づくりや児童理解の手法について、「理論・実際の指導・児童の姿」で学ぶことができた。
- 初任者Bは、課題設定の仕方、意見の位置付け方、構造的な板書計画等について学び、自身の教科指導力が向上した。
- 初任者A、初任者Bともに、配属学級担任や学年職員、初任者指導担当が同じ学校にいたので、分からないことがあればいつでも質問できるという安心感があった。
- 初任者Aは副担任なので、学級を離れ、いろいろな学年の授業や行事を参観することが可能である。

【課題】

- △同じ学年に2人の初任者を配置したことで、実際、学年職員が指導に当たることが多くなり、負担をかけた。
- △初任者Aが保護者対応の力を付けるためには、計画的・意図的にOJTを行わなければならないが、難しい状況を意図的に作り出すことは容易ではない。

【平成26年度より継続の指定校：2年目となる教員の勤務状況】

<昨年度初任者A(副担任)>

- ・今年度3年生担任として勤務している。昨年度から持ち上がった学年ではあるが、一からの学級経営や保護者対応に苦慮する場面もあった。学年職員のサポートもあり、日々の業務は軌道に乗っている。図書館主任として、新しい図書館祭りを企画するなど、意欲的に活動している。

<昨年度初任者B(担任)>

- ・今年度1年生担任として勤務している。何事も一から指導が必要な学年で、指導が後手に回ることもあったが、ベテラン2名の学年職員のサポートを受け、現在は歩調を合わせて指導を行うことができています。岐阜市教育研究会「道徳部会」のメンバーとして、道徳の授業公開を行うなど、自身の指導力向上にも取り組むことができます。

5 添付資料

担任業務移行指導計画		4月	5月	6月	7月
学習指導		主として担任で、話の中に、副担任の出番を入れながら進める。TTの形態	副担任が進める授業を設定。単発のできる授業を担当してもらう。授業の流れを見せ、次の時間担当してもらう。足りない部分の補足を担任が行うTT形態。担任が主の場合は、副担任が、要支援児に対応。話す聞くの学習姿勢づくりについて授業中にもこだわりながら進めるよう助言した。	副担任が進める授業を国語・算数を中心に単元によって設定。担任が主として単元の流れやプリントなど考えたことを伝え、副担任がアレンジして授業を進める。足りない部分の補足を担任が行う。担任が主の場合は、副担任が、要支援児に対応。話す聞くの学習姿勢づくりについて授業中にもこだわりながら進めるよう助言した。	
生徒指導	朝の会・帰りの会	主として担任		副担任の出番を入れながら進める。副担任も、子どものトラブルについては、気付いたところで、話を聞きつつ指導した。	
	掲示物	主として担任		副担任が補助。学級の歩み：内容を検討しながら、副担任が作る。	
	清掃指導	教室掃除担任・廊下渡り廊下副担任。		教室掃除副担任・廊下渡り廊下担任。	
	給食指導	担任主導。副担任が補助。			
保護者との対応	授業参観・懇談会	4月：指導案を担任が立てて、前半副担任、後半担任中心で授業を行う。懇談は、話す内容によって、役割を決めて行う。		6月：事前に、懇談内容を検討する。写真の準備は、副担任。子どもの様子について、副担任が担当。夏休みの課題等その他については、担任が進める。	
	家庭訪問・個人懇談	4月：担任・副担任2人で行う。子どものよさを中心に、副担任に話してもらい。家庭環境等、尋ねることやお願い事項は、担任で行う。3日目は、親対応に配慮する家庭以外は、副担任主導で行う。		子ども若者総合支援センターの相談：担任・副担任	
	手紙・電話対応	連絡帳点検は、副担任。連絡帳の返事の中で、お休みや連絡等は、副担任が担任に知らせた後、対応する。配慮が必要な内容については、直接担任が返事を書く。(電話連絡)			
	通信	内容を検討した上で、副担任が担当。学年通信もサイクルの中で、担当。			

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受け持つ単元の教材研究について、副担任が中心に進める。考えたことを担任と検討。プリントやペーパーなど教材作りも副担任が行い、授業を進める。プリントやノート指導の処理や、事後指導も副担任で行う。単元の前に、付けておきたい話し方や学習の仕方の指導についても、朝の会や授業の中で意図的に副担任自身で仕組んだ。また、よい姿や作品の紹介をした。		受け持つ単元の教材研究について、副担任が進める。考えたことで疑問がある時は、担任と検討。プリントやペーパーなど教材作りを副担任自で行い、授業を進める。プリントやノート指導の処理や、事後指導も副担任で行う。良い書き方、作品の紹介なども副担任が考えて行った。		国語・算数については、副担任が受け持つ。少人数や初任者研の時間について、小単元や、漢字などの練習の時間を中心に担任が受け持った。音楽や図工なども意図的に担当してもらう日を作る。担任は、援助の必要な子どもにつくようにした。学習プリントやペーパーは、単元の前に相談にのったが、自分で考えて授業づくりをした。			
副担任が進め、担任が補足副。どちらも子どものトラブルについては、気付いたところで、話を聞きつつ指導した。		副担任が進める。担任も、子どものトラブルについては、気付いたところで、話を聞きつつ指導した。		副担任が進める。学級での取り組みについて、クラスの子に語る姿もあった。副担任も、子どものトラブルについては、気付いたところで、話を聞きつつ指導した。			
副担任が朱書きを入れる作品もあった。学級の歩み：内容を、副担任が考えて作る。		教室掃除副担任・廊下渡り廊下担任。		副担任が、全体への掃除指導をする。			
副担任が進める日を設ける。		副担任が主導。					
		11月：授業参観の教材研究・準備を行った。体調不良のため授業は、担任。		2月：授業参観・懇談を副担任が進める。事前に学年会や担任との打ち合わせをした。			
10月：担任・副担任2人で行う。事前に懇談内容について、担任が記録したノートを副担任に見せ、さらに副担任に記録を膨らませて書きこんでもらう。前の週に、ノートの記録をもう一度二人で検討した。当日は、子どものよさを中心に、副担任に話してもらい。課題やお願い事項は、担任で行う。				2月：授業参観・懇談を副担任が進める。事前に学年会や担任との打ち合わせをした。			
相談や苦情に関しては、担任で。		連絡帳点検は、副担任。連絡帳の返事の中で、お休みや連絡等は、副担任が、対応する。配慮が必要な内容については、担任に知らせた後、返事を書く。相談内容によっては、担任が対応した。					
副担任が考えて担当。		副担任が考えて担当。					

1 調査研究校の概況

学校名(校長名)	岐阜市立 島 小学校 (校長:高橋 秀典)								
常勤教員数	29人	内:学級担任以外教員数 (6人)							
非常勤講師数	1人	*常勤・非常勤講師共に市費負担職員は含まない。							
学級数	23学級	内:特別支援学級数 (2学級)							
初任者数	2人	内:学級担任でない初任者数 (1人)							
2年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (1人)							
3年目教員数	1人	内:採用前講師経験者 (1人)							
4年目教員数	0人	内:採用前講師経験者 (0人)							
5年目教員数	1人	内:採用前講師経験者 (0人)							
6年目教員数	0人	内:採用前講師経験者 (0人)							
初任者指導教員	生徒指導主事								
児童生徒数	学級数及び児童生徒数								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
	学級数	4	4	4	3	3	3	2	23
児童生徒数	113	116	112	107	89	108	4	649	

2 初任者勤務状況

初任者(年齢・性別)	初任者A (23・女)	初任者B (24・女)
採用前の状況	<input type="checkbox"/> 新規学卒者	<input type="checkbox"/> 既卒者 講師経験あり(1年)
所有免許	小1・中1(理科)・高1(理科)	小1・中1・高1(国語)・幼1 司書教諭
校務分掌	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任ではない →5年2組副担任 ・理科専科 →5年全 ・生活指導部	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任 →2年2組学級担任 ・生活指導部

3 取組の具体

(1) 初任者研修の実施体制の充実

□学校全体で指導する体制の整備の在り方

島小 教科の専門性を磨くシステム

- <体制>教育支援員(理数科教育に対する興味関心を高めるためSTEM教育推進事業により配置。理科教員OBなど。)から教科指導を学べる体制とする。
- <内容>・担当学年の理科の授業について、教育支援員から学ぶ研修を実施した。
・教育支援員が実際に子どもへの支援を行う様子を見て、それを見習って初任者が実践することで、効果的な研修となった。

工夫点及び配慮点

◇教育支援員と初任者の専門教科が一致することから、教育支援員を巻き込み研修を充実できるよう体制を整えた。

島小 初任者の学級経営をサポートするシステム

- <体制>担任をもつ初任者の学級経営支援の一つとして、初任者指導教員が初任者の学級で週2時間の授業を行う。
- <内容>初任者指導教員が初任者の学級で週2時間の授業(音楽)を行った。その中で児童の様子や学級の実態把握に努め、学級指導や生徒指導の面からも初任者をサポートすることができた。

工夫点及び配慮点

◇前期を初任者指導教員の授業を示範授業として初任者自身のスキルアップにつないだり、ノート指導や日記や作品に朱筆を入れたりする時間に充て、後期前半を指導教員T1のT2として、支援の必要な児童への支援をしながら経験を積む期間とした。冬休み明けは初任者が中心となり授業を行う期間とし、研修をしつつ段階的に実践を積むことができるようにした。また、指導教員の授業時間の一部を示範授業としたことや初任者の授業の一部を研究授業としたことで、初任者の負担軽減を図ることができた。



□初任者の負担軽減の方策

島小 意図的な校務分掌

- <校務分掌> 地域との関係 (地域活動指導員)
5年生全学級の専門教科(理科)の指導
校内親和会担当(各学年より1名)

工夫点及び配慮点

- ◇地域活動指導員3名のうちの1名として、相談したり分担したりしながら指導に当たれるようにした。
◇親和会担当者として、全職員と積極的に関わることができるようにした。

□初任者と2、3年目程度の教員との関わりの持ち方「メンターチームの育成」

島小 **メンターチーム：「MOTTO」**

～もっともっと学びたい、授業力をつけたい、指導力をつけたいと願って～

＜メンバー＞ 6年目までが対象7人

内訳：1年目（2人）、2年目（2人）、4年目（1人）、5年目（1人）、講師（1人）

＜開催日程＞ 可能な限り毎週火曜日に実施。

＜内 容＞ ・毎週、1週間の実践を持ち寄って互いに学び合う研修とする。

工夫点及び配慮点

- ◇メンターチームによる研修を校長が主催し、単年度で終わるのではなく、継続的に学校で若手育成のシステムが定着するよう配慮する。
- ◇この研修が自然に教材研究の場になり、互いのアイデアを自由に出し合える雰囲気作りを心がける。
- ◇他学年の実践や児童の様子が分かり、今指導していることと他学年とのつながりに意識を向けられるようにする。

（2）初任者研修の研修内容等の充実

□初任者の年間の勤務としての適切な在り方

島小 **業務移行計画**

- ＜内 容＞ ・副担任が徐々に責任をもち業務に当たることができるように業務移行計画を作成し実施する。
- ・後期には副担任による「担任 Week」を定期的実施し、1週間単位で担任としての業務や責任を体験できるようにする。

工夫点及び配慮点

- ◇年間行事予定を見ながら副担任と一緒に無理のない計画を立て、見通しを持って教材研究や授業準備などができるようにする。
- ◇「担任 Week」実施後には、担任と副担任とで振り返りをし、次の「担任 Week」に向けての改善点を明確にして準備ができるようにする。

4 取組の成果と課題及び2年目となる教員の勤務状況

【成果】

- 1年間の流れが分かり、来年度以降の見通しをもつことができるようになった。
- 教科ごとの学習内容を系統的に捉えることができ、6年間を見通して指導にあたりたいという願いをもてるようになった。
- 要支援児童との関わり方や支援の仕方について、様々な手法があることが分かり、今後に生かしたいと思えた。
- 学年で統一することがあることの意味や、大切さが理解できた。
- 個への支援や個に寄り添うことを意識して生活できるようになった。
- 職員同士のコミュニケーションや、連携、共通理解・同一歩調で指導にあたることの大切さを実感できた。そうすることで、保護者の安心感が増すことも分かった。

【課題】

- △時間に追われ、目の前の仕事で精いっぱいの間が長かった。次年度は見通しをもって仕事をしたい。
- △児童の気持ちに寄り添って、細やかな指導をするには至らなかった。時間にも気持ちにもゆとりをもてるようになりたい。
- △学級目標を大切にしたい学級経営がしきれなかった。いつも全員で立ち返って振り返りをしたり、目指す姿を確認したりする指針としていけるようになりたい。
- △児童の意欲や好奇心をかき立てるような授業構成がなかなかできなかった。授業力や指導力を身につけていきたい。

【平成26年度より継続の指定校：2年目となる教員の勤務状況】

- 2年目A：1年生学級担任 図書主任 地域活動指導員（採用前講師経験有り）
 - ・伸び伸びとしつつ、落ち着きのある学級を作っている。
 - ・保護者からの信頼も得ている。
 - ・図書主任として、見通しをもった図書館経営を提案している。
 - ・全校研究会にて授業を公開し、意欲的に学んでいる。
- 2年目B：3年生学級担任 給食主任
 - ・活発な3年生児童をまとめて、個を大切にしたい学級経営をしている。
 - ・給食主任として、衛生面を大切にしたい準備の提案や、給食室への食器やボウルなどの返却の様子を見届けを積極的に行っている。
 - ・学年の他の職員に意欲的に質問や相談をして自ら学ぼうとするとともに、学年経営に寄与している。
 - ・全校研究会にて授業を公開し、意欲的に学んでいる。
- 兩名とも若手研修会「MOTTO」で、近しい年齢の職員と意見交流をすることを楽しみにしており、指導の手立てや技を増やしたいという熱意を感じる。

5 添付資料

教科の専門性を磨くシステム 理科教育支援員のサポートを得て

実践の様子 【5年生理科「物のとけ方」】 水の量を増やすと、食塩のとける量は変わるのだろうか。前時で、物が水に溶ける量には限りがあることを個人実験で明らかにした。溶け残った食塩を溶かすために水の量を増やしたらどうかと考え、本時では水の量を増やすと食塩の溶ける量は増えるのかを明らかにすることをねらいとした。



- ・初任者による教材研究、授業構成、板書計画を事前に理科教育支援員と相談の上、T1として授業を進める。
- ・グループ編成については、理科教育支援員のアドバイスに基づいて4名ずつの理科班で学習している。



- ・授業が始まると、理科教育支援員は実験用具・器具の準備の最終確認や配布等の側面から初任者をサポートする。
- ・必要に応じて、児童への声かけや実験サポートをしたり、安全確保のための指導・援助も行っている。



- ・初任者も各班を見て回り、実験の様子を観察して、実験のポイントや観察のポイントを確認したり、記録の仕方のアドバイスや安全確認をしたりしている。

《理科専科の初任者の感想》

- ・理科を専門とする教員が本人のみのため不安であったが、STEM教員に相談したり質問したりしながら、授業準備や授業に臨む環境が整っていきありがたい。
- ・3学級のうち、少なくとも1学級はSTEM教員をT1とする授業とすることで、授業構成や児童への対応について具体的に学ぶことができる。
- ・授業の雰囲気づくりや、手際よく実験準備をする工夫などを惜しみなく教えてもらえ、それを生かすことができた。

《理科教育支援員の感想》

- ・児童への支援とともに、示範授業、研究授業、授業研究など自分の経験を生かしてアドバイスしたりサポートしたりすることができてよかった。
- ・教材研究の段階から、方途やコツの指導ができて、初任者のためにも児童のためにもプラスになることがたくさんあった。
- ・板書計画や授業構成など、すぐに生かせるアドバイスとその見届けや修正ができた。

1 調査研究校の概況

学校名(校長名)	岐阜市立 三里小学校 (校長: 近藤 聡)								
常勤教員数	32人	内:学級担任以外教員数 (7人)							
非常勤講師数	4人	*常勤・非常勤講師共に市費負担職員は含まない。							
学級数	25学級	内:特別支援学級数 (2学級)							
初任者数	1人	内:学級担任でない初任者数 (0人)							
2年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (1人)							
3年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (1人)							
4年目教員数	0人	内:採用前講師経験者 (人)							
5年目教員数	0人	内:採用前講師経験者 (人)							
6年目教員数	1人	内:採用前講師経験者 (人)							
初任者指導教員	相談主任								
児童生徒数	学級数及び児童生徒数								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
	学級数	4	4	4	4	3	4	1(チ) 1(ジ)	25
児童生徒数	130	140	128	122	107	147	4(チ) 4(ジ)	782	

2 初任者勤務状況

初任者(年齢・性別)	初任者A (23・女)	
採用前の状況	<input type="checkbox"/> 新規学卒者	
所有免許	小1・中1(英語)・高1(英語)	
校務分掌	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任 →5年3組学級担任	
	・特別活動指導部 ・インリーダー ・英語指導	

3 取組の具体

(1) 初任者研修の実施体制の充実

□学校全体で指導する体制の整備の在り方

三里小 若手を育てる学校

＜体制＞・校長が学年主任に「学年全員で若手を育てる」ことの意義を語り、学年を母体とし管理職の指導の下、若手を育てる体制を整える。

＜内容＞・学年主任が初任者と共に動く機会を意図的に設定し、指導する姿を見せて、初任者に指導力をつけることができるようにした。

工夫点及び配慮点

◇年度当初から、全職員で若手育成をするように、学校の意識改革を行い、管理職が意図的・計画的に研修をマネジメントした。

◇初任者を校内で最も優れた担任のクラスの副担任とした。

◇校内研修等では、ワークショップ形式の研修を増やし、多くの先生の意見や考え方を聞いたり、自分の意見を聞いてもらえるような機会を増やし、より実践に備える研修を企画した。

□初任者と2、3年目程度の教員との関わりの持ち方「メンターチームの育成」

三里小 「若者勉強会」

＜メンバー＞6年目まで6人（内訳：2年目（2人）、3年目（2人）、6年目（1人）、1年目（1人）、講師（1人））

＜開催日程＞2ヶ月に1回（2～3時間）

＜内容＞・学級経営（主な内容：「年間の見通しの中での各『期』の重点指導」）
・学級通信を通して学び合う。

工夫点及び配慮点

◇「若者勉強会」の研修を校長が主催し、単年度で終わるのではなく、継続的に学校で若手育成のシステムが定着するよう配慮した。

◇職員にも「若者勉強会」での研修事項を周知し、若手を支えたり、認め励まし、悩みや困っている点を指導しやすい全校の体制を確立した。

(2) 初任者研修の研修内容等の充実

□年間の研修の在り方

三里小 優れた教員を見て学ぶ研修（OJT的に実践から学ぶ）

＜事例＞学級経営

＜内容＞・次年度、自分が担任になった場合（学年）を想定して研修させた。
・実際の危機管理に関する事例においてメモをさせながら検証まで行った。
・職員研修において、実践をもとに検証し、課題を明確にしたうえで研修に臨むことができるようにした。

工夫点及び配慮点

◇違う学級の事例をもとに、その担任の視点を通して課題を解決していく過程や、今後の意図的指導の在り方、価値付けについて学び、自分の学級経営に生かせるようにした。

◇実際に起きた危機管理に関する事例に、メモをしながら客観的に研修できるようにした。

4 取組の成果と課題及び2年目となる教員の勤務状況

【初任者の成果】

【学級経営】

○見通しをもった意図的な指導の必要性が理解でき、その方向付けとしての学級通信が発行できるようになり、通信を利用しながら子どもたちに明確な指導ができる力が付きつつある。

【教科指導】

○教科指導において「つけたい力」を明確にすることを学び、その視点から子どもたちの実態を理解し、実態に応じた指導方法を創意工夫できるようになってきた。

○机列表等をうまく利用して、個に応じた指導を心掛け、見届けをしようと努力し、子どもたちからも信頼を得つつある。こうした力は今後も応用できそうである。

【校務分掌】

○地域の方とも誠実に応対ができ、子どもたちのために配慮ある行動がとれ、地域との連携について学ぶことができ、地域やPTAを大切に活動ができた。

【初任者の課題】

△1年間の見通しをもつのは難しく、学級目標を意識して行事と行事、日常と行事等を結び付けて指導をすることを学んでいる。(経験値がない分の支援の仕方は学校としての課題)

△組織的に活動をさせる中で子どもたちの人間関係を構築したり、トラブルがあった時の指導の在り方についても、今後、研修や経験を通して学ぶべき点である。

△学習指導において評価の在り方については、今後も意識して研修する必要がある。

【制度について】

■初任者全てに当てはまる制度は無理であり、最初から担任をもった方がよい初任者もいれば1年間、副担任として学んだ方が力の付く初任者もいる。その初任者のことがわからないまま制度が進んでいることに問題があると感じている。また、初任者にとって最初の1年目に学んだ学級経営等が基盤となることを考えると、拠点校指導員という形で、望まない教員(あつてはならないはずだが、実際には…)に指導を受けて、それがもとで指導の基本が身に付かなくても困る。指導者が担任で、初任者をフリーにするとすると学校運営上、どこかにその負担が増すことになる。人的な補填が必要である。学校体制で初任者を育てることは、学校としても当然理解しており、工夫しながら育成をすすめているつもりである。要は、こういう制度で、書類等の提出が多く、それに関わっての業務が増えるために担当が必要となり、学校が苦しんでいることを理解すべきである。学校、職員、何より子どもたちにとってよい制度になるような改善(人的補填・書類等の軽減化・教育委員会からの指導派遣の定例化等)を希望する。

【平成26年度より継続の指定校：2年目となる教員の勤務状況】

○2人とも大変意欲的に担任業務を遂行しており、子どもたちや保護者からの信頼も厚く、6年生、3年生の担任を務めている。学校組織の中でも、児童会担当、学校行事担当として大きな役割を、独自の工夫を加えながら進め、重責を十分果たしている。学校としても2人の成長はうれしい限りである。

△2年目になると突然、手を放たれたように感じ、自分がやっていることがそれでいいのか不安に思うという実態を踏まえ、校内での研修はもったが、夏休みや冬休みにも教育委員会主催で同期の他校での実践等が交流できると安心したり、励みになると思う。

△教科指導で見本となる実践がみられる機会を夏林みよとかに企画してもらいたい。

本気でいどむ

平成 28 年 1 月 20 日 (水)
5 年 3 組学級通信
第 7 号

祝！ 257 回！！



練習量にこだわっていどんだ証！

1 回目の大なわの計測が終わった後、「このままじゃいけない！」「悔しい！」「もっと跳びたかった！」そんな思いを抱いたみなさんです。回数だけ目指していいのか、他の学年や学級と同じように練習だけしていればいいのか、3 組の強さ、これだけは負けないと胸を張って言えるものはあるのか、一人一人が考え、迎えた昨日の 2 回目の計測。記録は、な、な、なんと 257 回！！！前回の計測と比べて 60 回以上も伸びました。「やったあ！」「よかった」「みんなも喜んでいてうれしい」みんなの喜びに満ちた笑顔・歓声は、心が一つになって 3 組がひとつになった瞬間を見たようで、わたしも本当にうれしかったし、「やった！」と叫びたくなりました。

では、どうして 257 回も跳べたのでしょうか？帰りの会で多くの人がつぶやいたように、「朝休みも朝タイムも 20 分休みの計測前もたくさん練習したから」「3 分間なわを見て集中していたから」「全員がよい記録を出そうという気持ちだったから」「あと 5 分しか練習の時間がなかったけれど跳びに来る人がいたから」…こういった一人一人の積み重ねが結果に結びついたのだと思います。ひとつになった時のパワーってすごいですね。計測はあと 1 回です。「時間がないからあまり練習できない」と考えるのか、「時間を有効に作り出せば練習できる」と考えるのかはあなた次第です。わたしは、3 組なら、まだできる…300 をめざせる！…そう思っています。今日のみんなの姿を見ていると、本当に楽しみです。今の自分たちができることを精一杯やる大切さを忘れず、また 35 人全員で向かっていきたいですね。全校 1 位になって、心がひとつになった瞬間を味わおうではありませんか！今回は誰ひとり欠けることなく、35 人全員が 3 組の強みにこだわっていどんだこと、これが今回の一番の宝物です。本当におめでとう。でも、まだこれからです！期待してますよ！！

1 調査研究校の概況

学校名(校長名)	岐阜市立茜部小学校 (校長：鵜飼 高男)								
常勤教員数	39人	内：学級担任以外教員数 (12人)							
非常勤講師数	2人	*常勤・非常勤講師共に市費負担職員は含まない。							
学級数	24学級	内：特別支援学級数 (2学級)							
初任者数	2人	内：学級担任でない初任者数 (1人)							
2年目教員数	2人	内：採用前講師経験者 (2人)							
3年目教員数	2人	内：採用前講師経験者 (0人)							
4年目教員数	0人	内：採用前講師経験者 (0人)							
5年目教員数	1人	内：採用前講師経験者 (0人)							
6年目教員数	1人	内：採用前講師経験者 (0人)							
初任者指導教員	教務主任・初任者指導加配教員								
児童生徒数	学級数及び児童生徒数								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
	学級数	4	4	4	4	4	4	1(チ) 1(ジ)	26
児童生徒数	133	129	129	152	132	142	12	829	

2 初任者勤務状況

初任者(年齢・性別)	初任者A (25・男)	初任者B (23・女)
採用前の状況	<input type="checkbox"/> 既卒者 講師経験あり(1・2年)	<input checked="" type="checkbox"/> 新規学卒者 講師経験なし
所有免許	小1・中1(国語)・高1(国語)	小1・中1(家庭)・高1(家庭)
校務分掌	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任 →2年2組 学級担任	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任 →5年4組 学級副担任
	・生活特活部会 ・地域活動指導担当	・家庭科、音楽、毛筆、各4時間、計12時間 ・学習指導部 ・地域活動指導担当

3 取組の具体

(1) 初任者研修の実施体制の充実

□学校全体で指導する体制の整備の在り方

茜部小 教科の専門性を磨くシステム

- <体制> 校内研究主題、推進各学年職員、管理職の子どものかかわり・授業から学ぶ。
<内容> ・担当学年の国語や、他教科において、話す・聞く姿の具現、つきたい力を
培い、3つの見届けの指導法・指導支援の在り方を、授業を参観して学ぶ。

工夫点及び配慮点

- ◇研究主題：国語を核とした教科指導を通して研究する校内研究体制をしていることから、学年職員4名が組織的に、初任者の専門の教科指導力をより高める研修を行った。

□初任者の負担軽減の方策

茜部小 意図的な校務分掌

- <校務分掌> 日常の職務の具体提示（例「校内職務の迅速な対応の仕方、職務指導の在り方、若手研修会での情報交流」、職員間の交流（親睦会事業の推進）。

工夫点及び配慮点

- ◇初任者指導教員との指導内容を、資料づくりなど実務的な内容面も強化する。
（具体的な助言、学級経営・教科指導事務を両方で実施。）

□初任者と2、3年目程度の教員との関わりの持ち方「メンターチームの育成」

茜部小 「若手研修会」

- <メンバー> 6年目まで6～8人

（講師を含む：内訳：1年目（2人）、2年目（2人）、3年目（2人））

※他の職員の参加〔若手講師2名程度も参加〕

- <開催日程> 月1回程度、月の職務内容状況によって、若手のニーズも考慮して変更。

- <内容> ・教科指導（例「今月の教科指導の力点、実践記録のまとめ方のノウハウ、学校行事での児童の育て方、教師の出場、成績のつけ方・技・手本交流」）
・学級経営（例「何でも話せる学級づくり、経営で何を核とする技・手立て子どもに自信をもたせる学級経営のコツは」）
・保護者対応（例「各悩み交流、対応の仕方のノウハウ、電話対応の在り方、訪問対応での留意点交流」）
・それぞれの悩みの交流をすることで、初任者の不安を解消した。

工夫点及び配慮点

- ◇「若手研修会」の研修を校長・教頭が主催し、単年度で終わるのではなく、継続的に学校で若手育成のシステムが定着するよう配慮した。同時に、若手の精神安定を図り、快活に職務遂行できるよう配慮した。

(2) 初任者研修の研修内容等の充実

□初任者の年間の勤務としての適切な在り方

茜部小 担任業務の移行をスムーズに行う

＜内 容＞・初任者である副担任が、担任の業務を徐々に担当するように、業務のウエイトを意図的に配分した。

工夫点及び配慮点

- ◇年間の前半の研修では、副担任の専門教科の研修内容に重点を置き、徐々に専門教科以外の教科の1単元を担当するように、意図的・計画的な研修とした。
- ◇業務の移行について、管理職が丁寧に初任者に説明をし、見通しをもたせた。
- ◇徐々に担任業務を移行することについて、他の職員や保護者に理解が得られるよう、管理職が丁寧に説明をした。
- ◇特別支援教育についての理解を、実際に知的学級・自情学級に、1週間に数時間入りながら担任から学ぶ研修体制をとっている。

4 取組の成果と課題

【成果】

- 専門教科（家庭科）について、主題研究と関わって実践し、少しずつ専門性を身につけることができた。
- 学級担任の学級経営、子どもの接し方・指導法を学ぶことができ、初任時からスムーズな、過度な精神的な負担なく職務推進ができた。
- 1年間の副担任をすることで、年度を通してどのように学級運営をしたらよいのか職務の重点・見通しをもつことができた。
- 副担任として学年に所属することで、高学年等の年間を通した取り組みがわかった。

【課題】

（初任者指導としての課題）

- △学級担任に頼る度合いが大きいので、主体性・責任をもって取り組む点がやや弱い。
- △初任者として担任を持たないが、一方では講師経験があるの初任者が初年度から担任をもつので、本人にとって出遅れ感をもった。

（学校運営上の課題）

- △学校組織として、岐阜県の教育の教員配当基準から、学級数から教員数が決められる。そこで教諭の配当が、初任者：副担任・教諭の1名としてカウントするため、出張授業・少人数指導等の配置が難しい。授業時間数が限られているのが課題である。初任者指導力を伸ばしつつ、かつ学校運営上の専科授業・少人数指導ができる教育課程を、校長判断に任せていくとよい。

H27年度 若手研修会 (6年目まで) H27.7.14 16:30~

場所は校長室 (16:30~)

【目的】

1. 日々、日常的な教育実践の進捗・学年として、互いの状況をつかみ、教育実践力に生かす。
今後の多方面において授業力・学級経営力・保護者対応力を高めるために実施する。

【この会を始めるにあたって】

- ・基本的に教員6年目までの方や、自称20~30代の方が集まって、交流する会とする。
- ・16:30~始まり**基本的に30~45分で終わる。**
- ・**選案を持ってきてください。**互いの予定を確かめるために、先週・今週の行事・生徒指導・授業の交流、日頃の状況について、ざっくりと交流。これからのエネルギーを培う。

【交流内容】

1. 各担任の先週・今週の動き紹介
 - ・今年1学期を振り返って
 - ・残り3日間、何をやる?
 - ・成績関連の執務状況

2. これから何をしたいかあればならないか? 今
→

H27年度 若手研修会 ; チーム茜部 (教職6年目まで)

H27.12.21. 17:30~18:15

場所は校長室 (17:30~18:15前後まで)

【目的】

1. 日々、日常的な教育実践の進捗・学年としてのいえない悩み相談、今後の多方面において、授業力・学級経営力・保護者対応力を高めるために実施する。

【この会を始めるにあたって】

- ・基本的に教員6年目までの方や20代~30代の方が集まって、交流する会とする。
- ・**基本的に45分で終わる。**
- ・**選案を持ってきてください。**互いの予定を確かめるために、先週・今週の行事・生徒指導・授業の交流、各学年の進捗や解決したいことなど、交流し、解決にむかってアドバイスを得る。など
- ・**メンバーは→20代・30代の教職6年目までの先生方**

【打ち合わせ内容】

1. 2学期、それぞれにする仕事は何があり。どう見届けるか? 加恵を交流。
各担任の先週・今週の動き紹介

・成績関連執務をふり返って

・各学年でこれはと学んだ点は? どうしようかと考えている点は?

2. 教育実践記録、すでに進んでいる先生、これから立ちむかう先生。
・昨年度、挑戦してみてタイムテーブルは?

・何を、子どもがいる間にしていく必要があるか?

・教育実践記録のテーマはどうか、どんな主張で挑戦するか?

3. 日頃の相談等、情報交流しよう。

1 調査研究校の概況

学校名(校長名)	岐阜市立 市橋小学校 (校長:河合 宜昌)								
常勤教員数	39人	内:学級担任以外教員数 (9人)							
非常勤講師数	2人	*常勤・非常勤講師共に市費負担職員は含まない。							
学級数	28学級	内:特別支援学級数 (4学級)							
初任者数	2人	内:学級担任でない初任者数 (1人)							
2年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (1人)							
3年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (1人)							
4年目教員数	0人	内:採用前講師経験者 (人)							
5年目教員数	0人	内:採用前講師経験者 (人)							
6年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (1人)							
初任者指導教員	保健指導主事								
児童生徒数	学級数及び児童生徒数								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
	学級数	4	4	5	3	4	4	2(㊴) 1(㊵) 1(㊶)	28
児童生徒数	136	112	146	110	127	129	10(㊴) 3(㊵) 4(㊶)	777	

2 初任者勤務状況

初任者(年齢・性別)	初任者A (23・女)	初任者B (24・男)
採用前の状況	<input type="checkbox"/> 新規学卒者	<input type="checkbox"/> 既卒者 講師経験あり(1年)
所有免許	小1・中1(英語)・高1(英語)	小1・中1(社会)・高1(地歴・公民)
校務分掌	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任ではない →5年4組副担任 ・児童会実行委員副担当 ・健康安全指導部 ・インリーダー担当(子ども会)	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任 →2年3組学級担任 ・生活指導部

3 取組の具体

(1) 初任者研修の実施体制の充実

□学校全体で指導する体制の整備の在り方

市橋小 教科の専門性を磨くシステム

- ＜体制＞学級担任、ALT、他の英語教師から学ぶ。
- ＜内容＞・学級担任を T2 として授業を行う。
 - ・ALT との連携を密に、共に授業を行う。
 - ・他学年の英語教師の授業を参観して学ぶ。

工夫点及び配慮点

◇学級担任との TT を実施することで、学び方指導を含めた具体的な相談あるいは、学級担任からの指導・助言がしやすくなるようにした。

□初任者の負担軽減の方策

市橋小 意図的な校務分掌

＜校務分掌＞事務関係（算数指導、諸帳簿、学級・学年通信）、地域との関係（地域活動指導員）、子どもとの関係（児童会実行委員会副担当）、専門教科（外国語）の指導

工夫点及び配慮点

- ◇日常的な児童の活動内容の把握や児童理解に立った指導の在り方を理解できるように、児童会担当(3年目)の職員の補佐として配置した。
- ◇諸帳簿の氏名欄の記入を行わせることで、帳簿の種類や必要性の理解を図った。
- ◇通知表の所見下書き、管理職の指導事項を読ませ、何に注意する必要があるのかを学ばせた。
- ◇学年・学級通信を作成する機会をもたせ、内容に対する指導を通して、児童や活動の理解を促した。
- ◇ベテラン教員学級2クラスの算数(習熟度別)に配置し、必要な教具など、担任の指導・助言を受けながら作成できるようにした。
- ◇児童を通して地域と関われるよう、インリーダー担当(子ども会)の補佐として位置付けた。
- ◇専門性を生かし、所属学年(5年生)の英語担当とし、各担任の助言を得ながら授業を行えるようにした。また、学年の児童全員と交流できるようにした。
- ◇他教科の指導については、「単元」を任せるなど、過度な負担とならないよう配慮した。

□初任者と2、3年目程度の教員との関わりの持ち方「メンターチームの育成」

市橋小 「チーム市橋」 全体で育てる

- ＜メンバー＞6年目まで8人(内訳:初任者(2人)、2年目(2人)、3年目(2人)、6年目(2人))
- ＜開催日程＞会議の精選という趣旨をふまえ、「メンバー」という意識をもつこと、困ったとき聞きたいことがあるときに、より所となるような関係性を創ることを大切にしました。したがって定期的な会議は実施していない。

＜内容＞・先輩教員から学ぶ。

リーダーとして位置付けた職員の誘いで授業を参観し、放課後に先輩教員が大切にしている事を聞くことができた。また、日常的に食事に誘って学校のことなどを交流するなど、支え合う雰囲気を作ってきた。 (次頁へつづく)

・2年目から学ぶ。

2年目の一人の専門教科が英語ということもあり、いっしょに教材研究をしたり、児童との接し方や理解の仕方など、副担任として大切にすることを、昨年の経験を踏まえて教えたりしている。

工夫点及び配慮点

◇6年目(英語、国語、社会)の3名をリーダーとすることで、後輩に直接教えたり、話しかけようと後輩の行動を観察するなど、教えることで2度学ぶことができるよう配慮した。

(2) 初任者研修の研修内容等の充実

□年間の研修の在り方

市橋小 生徒指導の実践から学ぶ(OJT)

＜内 容＞・児童への実際の事実確認の場に同席させる。
・全校や学級活動に担任とともに取り組ませる。

工夫点及び配慮点

◇ささいなトラブルがあった場合、事実の聞き取り方や指導の仕方について事前に打ち合わせ、担任が同席しながら指導を任せるようにした。

◇担任とともに活動に取り組ませ、具体を通して取組の価値や問題点を焦点化して説明し、指導しきるよう見届け、価値づけるようにした。

4 取組の成果と課題及び2年目となる教員の勤務状況

【成果】

- 初任者Aについての今回の教科担任のメリットとしては、同じ単元の授業が何回かできるため、試行錯誤しながら指導の工夫をすることができ、授業に自信をもつことができた。また、5年全学級の授業に関わっているため、5学年全体や学年児童のことがよく分かり、5年生の所属職員の指導や助言を生かすことができた。休み時間も児童と共に過ごすことができ、児童理解と関係の向上に役立った。また、昨年度の反省から、授業時数を減らすことで放課後の時間が確保され、他の職員との相談や教材研究などの時間が確保できたことから、学級児童の指導や学年所属職員に力を貸すことができた。来年度は学級担任として、さらなる向上が期待できる。
- 初任者Bについては、初任者研修担当教員が初任者の学級の授業を2時間担当しているため、学級のことがよく分かり、学級経営や学び方指導などの相談に対して、具体的な助言がしやすかった。また、学年職員を含めたこれらの支援により、初任者研修内での公開授業者に立候補するなど、指導力向上への意欲化を図れた。

【平成26年度より継続の指定校：2年目となる教員の勤務状況】

・学力向上徹底訪問での授業公開、ピア・サポート・スクール アドバンスモデル校研修での授業公開等、2名とも全校研究会の授業者に立候補するなど、教科指導力の向上に前向きに取り組んでいる。また、親睦会長や英語担当として、英語学習の校内研修を主催するなど、全校的な役割に対しても積極的である。

1 調査研究校の概況

学校名(校長名)	岐阜市立長良西小学校 (校長:和田 満)								
常勤教員数	38人	内:学級担任以外教員数 (11人)							
非常勤講師数	1人	*常勤・非常勤講師共に市費負担職員は含まない。							
学級数	27学級	内:特別支援学級数 (3学級)							
初任者数	2人	内:学級担任でない初任者数 (1人)							
2年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (0人)							
3年目教員数	0人	内:採用前講師経験者 (0人)							
4年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (1人)							
5年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (2人)							
6年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (1人)							
初任者指導教員	教務主任, 生徒指導主事, 学年主任								
児童生徒数	学級数及び児童生徒数								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
	学級数	4	4	4	4	4	4	2(チ)1(ジ)	27
児童生徒数	115	115	117	127	121	135	15	745	

2 初任者勤務状況

初任者(年齢・性別)	初任者A(23・女)	初任者B(25・女)
採用前の状況	<input type="checkbox"/> 新規学卒者	<input type="checkbox"/> 新規学卒者
所有免許	小1・中1(数学)・幼1	小1・中高1(国語)・特支2
校務分掌	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任ではない →6年副担任 ・算数少人数指導 →6年全 ・すこやか委員会(健康安全指導)	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任 →わかあゆ2組学級担任(知的) ・特別活動指導担当 ・うるおい委員会(環境指導)

3 取組の具体

(1) 初任者研修の実施体制の充実

□初任者と2年目程度の教員との関わりの持ち方「メンターチームの育成」

長良西小 「バディー研修」

＜メンバー＞初任者と2年目がバディーを組んで研修する。

(内訳：1年目(2人)、2年目(2人))

＜開催日程＞月1～2回

＜内 容＞・教科指導(例「少人数指導の実際(算数)」)
・学級経営(例「あたたかい学級集団づくり」)
・悩みの相談

工夫点及び配慮点

◇「バディー研修」における研修で、効果的な研修となるよう、校長の指導の下、教頭が中心となり研修を主催した。

◇2年目の教員にとっても、自らの実践を振り返り、指導力を向上させることができるよう、フォロー体制を整えた。

(2) 初任者研修の研修内容等の充実

□年間の研修の在り方

長良西小 子供の発達の段階に応じた適切な指導や保護者との関係づくり(OJT)

＜事 例＞学級経営、教科指導

＜内 容＞・第1学年～第6学年まで全学年の授業を参観して学ぶ。

・所属学年の懇談会で、担任の指導を見て、保護者対応について研修した。

工夫点及び配慮点

◇全職員に、初任者が「子供の発達段階」について理解を深めることの大切さを伝え、全学年の授業参観ができるようにした。

◇担任業務を徐々に移行することについて、保護者の理解を得て進めることができるように、懇談会等を通して丁寧に説明をした。

4 取組の成果と課題及び2年目となる教員の勤務状況

【成果】

- 意図的・計画的な研修を行ったことで、初任者と2年目教員の自然な実践交流やコミュニケーションができ、お互いに自分たちの実践や困ったことを構えず話すことができた。
- 特に、算数の少人数指導については、2年目教員の昨年の実践を生かしながら、さらに少人数の指導の在り方を向上させようと課題をもって実践することができた。
- 全学年の各教科の授業を参観することにより、指導の系統性や子供の発達の段階を踏まえた指導の大切さを学ぶことができた。特に算数では、6年生での指導をもとに子供たちの数学的な見方や考え方についての系統性について理解しようとする努力することができた。
- 教科指導だけでなく、学級懇談会や個人懇談にも、保護者の理解を得て各学年の担任と参加することができ、各学年の発達の段階に応じた学級経営や保護者の対応についても学ぶことができた。
- 担任をもたず、専門教科の算数の少人数指導を中心として実践を重ねることができたことにより、算数科の基本的な学び方の指導に自信をもつことができた。

【課題】

- △全学年の様子を意図的・計画的に参観し、研修を進めていくための時間を調整するのが難しい。
- △担任でないために、研修したことをすぐに実践するといった研修サイクルをつくりだすことに難しい面がある。また、学年を幅広く研修できる反面、研修が授業の参観や講話に偏ってしまう。

【平成26年度より継続の指定校：2年目となる教員の勤務状況】

- ・2名とも、担任として教科指導、学級経営について、昨年の研修を基に力を伸ばしてきている。
- ・2年目研修において「図画工作科指導の在り方」「特別活動の指導について」と、現在の自分の立場や状況から課題を設定し、意欲的に実践を進めることができた。
- ・平成27年度全国造形教育連盟・日本教育美術連盟合同研究大会岐阜大会での授業公開や校内研究会では、積極的に授業を公開することができた。
- ・実践や昨年の研修の様子などを初任者の先生と話題にしながら、初任者のメンター的な立場として活躍した。

5 添付資料

◆ 初任者A教諭・初任者研修（配置校研修）での公開授業の様子



初任者研修 No.18 （配置校研修）

平成28年1月26日（火）第5校時

算数 6年1組

単元名「資料の特ちょうを調べよう」

（資料の調べ方）

今回とても貴重な機会をいただき、多くの先生方から多くのことを学ぶことができました。その中でも、課題追究と学習評価に視点をおき、研究会が行われました。

課題追究では、単元の終末として、平均や散らばりなどこれまでに学習し、身に付けてきたことを発揮できる子供の姿をねらっていました。そのために、課題追究の時間を多く設けられるようにスムーズな導入ができたことが1つの成果です。導入が早ければいいわけではなく、子供に興味をもたせてスピード感と丁寧さの微妙なバランスを図ることが大切だと教えていただきました。しかし、課題追究の中での全体への声かけと個別への声かけ、個人の価値づけを全体に広げる声かけの使い分けをしていくことが今後の課題です。

学習評価では、振り返りカードを用いて自己評価を行いました。6年生という発達段階を踏まえて自己評価を行ったこと、1単位時間の評価規準を明確にして質問項目を挙げたことが、学習評価に少しでも有効に働いていたと意見をいただきました。単元を見通して評価につなげられたことが成果だと感じています。しかし、子供たちが評価をすることのよさを実感していたかという疑問が残ります。評価をすることや振り返りを書くことで、どのようなよさがあるのかを子供たちに伝えて行っていくことが必要だと教えていただいたので、今後の実践に生かしていきたいと思えます。

今回は、担任の先生の素晴らしい学級経営があったからこそできた授業です。来年度は、自分で学級経営をしていき、授業をすることになります。どのような投げかけや働きかけが、「一人一人を大切に」する学級経営につながるのかを考えながら、今後の研修をしていきたいと思えます。自分の成果はもちろん、課題も自分の経験値にして、来年度につなげていきたいです。

（初任者A教諭の振り返りより）

授業を観て学んだこと

- ・児童の振り返りがめあてに関わって書いてあり、導入で課題意識を強くもたせることが大切であると学んだ。
- ・児童の自己評価を取り入れることで、児童が授業での頑張りを振り返ることができるだけでなく、児童のつまづきを教師が知ることができ、次時の指導改善につながることを学んだ。

これからに生かしたいこと

- ・課題追究の場面では、児童に視点をもたせられるような工夫をしたい。

1 調査研究校の概況

学校名(校長名)	岐阜市立 長良東小学校 (校長: 和合 保)								
常勤教員数	33人	内:学級担任以外教員数 (10人)							
非常勤講師数	4人	*常勤・非常勤講師共に市費負担職員は含まない。							
学級数	23学級	内:特別支援学級数 (1学級)							
初任者数	2人	内:学級担任でない初任者数 (1人)							
2年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (2人)							
3年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (1人)							
4年目教員数	1人	内:採用前講師経験者 (0人)							
5年目教員数	2人	内:採用前講師経験者 (2人)							
6年目教員数	1人	内:採用前講師経験者 (0人)							
初任者指導教員	特別支援教育コーディネーター、理科主任、教育相談担当								
児童生徒数	学級数及び児童生徒数								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
	学級数	4	4	4	3	4	3	1(千)	23
児童生徒数	140	115	124	98	130	107	6	720	

2 初任者勤務状況

初任者(年齢・性別)	初任者A(25・男)	初任者B(23・女)
採用前の状況	<input type="checkbox"/> 新規学卒者	<input type="checkbox"/> 新規学卒者
所有免許	小専・中専(理科)・高専(理科)	小1・中1(国語)・高1(国語)・幼1
校務分掌	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任 →2年3組学級担任	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任ではない →6年3組副担任
	・保健安全指導委員会	・生徒指導委員会

3 取組の具体

(1) 初任者研修の実施体制の充実

□初任者の負担軽減の方策

長良東小 初任者の意図的な配置（学年所属）

<所属学年>・初任者を6年3組の副担任として配置する。

工夫点及び配慮点

◇初任者を行事等で全校に関わりが必要となる最高学年の所属とすることで、自分の学級だけでなく、全校の動きや全学年の活動について把握できるようにした。

□初任者と2、3年目程度の教員との関わりの持ち方「メンターチームの育成」

長良東小 「P研修」の実施（名称の由来：「personnel training 研修」の略）

<メンバー>・3年目まで8人

（内訳：1年目（4人）、2年目（2人）、3年目（2人）、講師を含む）

- ・希望者
- ・指導者

（初任者校内指導員、教務主任、生徒指導主事等の中堅教員）

<開催日程>・不定期（研修を行う必要がある時に随時開催 月1回程度）

<内 容>・学級づくりや授業づくりの力量向上を目指し、以下のテーマの中から希望の多かったものを取り上げ、実施した。

領域	No.	テーマの例	Check
学級づくりⅠ 【年度当初】	1	担任第一声で話す内容	
	2	学級通信第1号に書く内容	
	3	学級組織（班、係、当番）の決定の仕方	
	4	学級目標を作成する手順	
	5	座席決めの仕方	
学級づくりⅡ 【通年】	6	学級への所属感を高める掲示物の在り方 (学級目標、学級の歩み、児童作品、係活動etc)	
	7	行事で学級を高めるポイント	
	8	朝の会・帰りの会の進め方(目標のもたせ方・教師の語りetc)	
	9	給食の配膳を素早く行うための工夫	
	10	嫌いな食べ物にもチャレンジできる子どもにする指導	
	11	子どもが意欲的に掃除を進めるための工夫	
	12	教師の休み時間の過ごし方	
	13	係活動を活性化するための工夫	
	14	保護者（または子ども）が読みたくなる学級通信のポイント	
	15	子どもが進んで挨拶をするようになるための工夫	
	16	各学期のしめくくりの活動の在り方	
	17	温かい人間関係を築くための指導	
生徒指導 (危機管理)	18	いじめをなくす(防ぐ)ための教師の語り	
	19	命の大切さを伝える教師の語り	
	20	アレルギー（食物、化学物質etc）の子どもへの対応の仕方	
	21	遠足、宿泊学習等での安全指導の仕方	
	22	児童が授業中、意識不明になった時の対応	
	23	児童が交通事故の被害に遭った時の対応	
	24	落ち着きのない子どもに対する指導	
	25	感情のコントロールのきかない子どもに対する指導	
	26	緘黙傾向のある子どもに対する指導	
	27	不登校児童に対するかかわり方	
	28	基本的な生活習慣の身につけていない児童に対する指導	
保護者との 関係づくり	29	第1回保護者懇談会での教師の語り	
	30	クレームに対する対応の仕方	
	31	家庭訪問で話す内容	

領域	N.º	テーマの例	Check
授業づくりⅠ (準備段階)	32	授業の開始・終了時のルールとその指導方法	
	33	学習の準備・学習用具のルールとその指導方法 (筆箱の中に入れておくもの、机の上に出しておくものetc)	
授業づくりⅡ (話す・聞く)	34	大きな声で話す子どもを育てるための方法	
	35	同じ子どもばかりが発言する状態を克服する方法	
	36	相手意識をもって話す子どもを育てる方法 (子どもが子どもに問うetc)	
	37	聞いたふり・分かったふりをする児童が多い状態を克服する 方法(安易に「同じです」「いいです」と言わせないためにetc)	
	38	授業に参加できない子どもに対する指導の仕方 (学習意欲のない児童、集中できない児童、立ち歩いてしまう 児童、他の児童に迷惑を掛けてしまう児童等に対する指導etc)	
授業づくりⅢ (発問・話し合い)	39	学力差への対応の仕方 (進度の速い児童と遅い児童の差、課題がはやく終わった 児童への対応etc)	
	40	発問の仕方 (児童の考えを引き出す発問、児童の思考を深めたり広げたり する発問etc)	
	41	発言の組織の仕方 (多様な意見をまとめる時、想定外の意見が出された時、子 ども同士の意見をつなぐ時etc)	
授業づくりⅣ (机間指導)	42	小集団交流の位置付け方 (ペア交流・グループ交流・全体交流の位置付け方etc)	
	43	机間指導の仕方 (子どもを評価し指導する机間指導、展開にいかず机間指導 etc)	
授業づくりⅤ (ノート指導)	44	ノートの書かせ方・約束 (とるノートの作り方、作るノートの作り方、まとめの書かせ 方etc)	
授業づくりⅥ (板書)	45	子どもたちに役立つ板書 (タイミング、構造、色分けetc)	



工夫点及び配慮点

◇研修では、テーマに関する事例を取り上げ、その事例について自分の考えを書くとともに、考えを交流し深めていくという形をとっている。事例をもとに交流することで、より具体的な内容を交流することができ、その後の実践に生かすことができるようにした。また、研修が実践につながるよう、学びを振り返る場を意図的に設定し、指導方法等を明らかにして実践できるようにした。

5 研修Ⅰについて

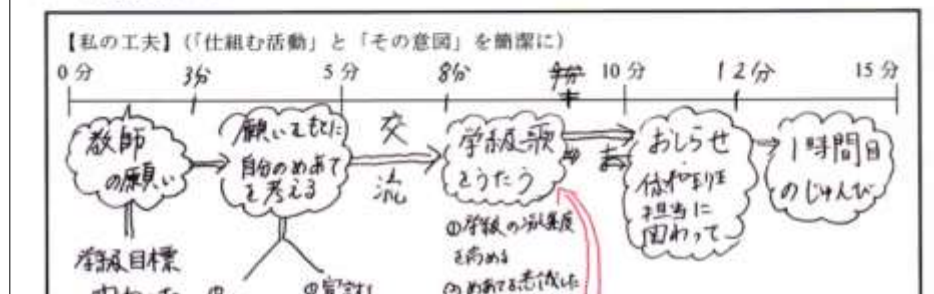
Case

A教諭(教職経験3年目、4年生担任)は、一人一人の子どもたちが1日の目当てをしっかりととめるようにするとともに、クラスも一丸となって目当てに向かって生活できるようにするために、朝の会の内容を工夫したいと考えています。

これまでは、学級委員がクラスの目当てを話したり、ペア交流をさせて一人一人が目当てを話す場を位置付けたりしてきました。しかし、A教諭の学級経営上の意図とずれてしまったり、子どもたちが自分の目当てを意図して生活できなかったりするなど、問題点も出てきました。また、1時間目の授業に教科担任の先生の授業が入るため、朝の会を延長することもできません。

15分という限られた時間の中で、一人一人の子どもたちが1日の目当てをしっかりと持ち、クラス全体も目当てに向かって生活できるようにするために、あなたならどんな工夫をしますか?

6 【研修Ⅰ】メモ



◇指導者として、初任者校内指導員や教務主任、生徒指導主事の他、テーマによっては6年目研修を終え、「若手教員のリーダーとして（メンタリング基礎）」や「教科指導にかかわる研修」等を学んだ教員が指導に当たることもあった。例えば、本校7年目の教員が校務分掌として学習指導委員長を務めていることから、授業づくりに関する内容を担当した。まず、自ら授業を公開し、「はじめのあいさつ、終わりのあいさつ」「挙手」「聞く（聴く）、話す（発言）、見る（仲間の動き）の様子」「筆記用具の種類」「言葉遣い」等の学業指導的内容や、教科の学び方などを中心に授業を参観させるとともに、その内容について意見交流を行った。研修に参加した教員からは、比較的年齢が近い教員から、直接考えを聞くことができ、よい意味で影響を受け、自分の考えや指導方法を広めることができたという声を聞くことができた。以下は、本研修を終えての初任者の振り返りである。

今日は、先生の授業から、子どもが意欲的になる価値付けのしかたや、比べて話せる力の大切さについて学びました。普段の授業を見ていて、挙手発言や話を聞く姿勢など、授業を受ける姿勢がとてもよいと感じていましたが、その裏には声を出させるための工夫、仲間と比べるための「三回ルール」など、先生の願いやこだわりがあったのだと知りました。取組にはメリット、デメリットがあることを理解し、自分が何をねらいとして手段を選ぶのかを考えていきたいです。

また、その後の研修会では、全員の先生方が、授業を見る独自の視点をもっていらっしゃいました。私は話している先生を見ていましたが、聞いている子どもの様子はどうか、子どもの気持ちはどうなのかに注目することで、子ども主体の授業について考えられるのだろうと思いました。今後は、先生の動きに加え、子どもの姿にも注目したいです。

◇1回の研修時間については、必ず1時間を超えないようにした。また、参加については、短時間の参加も可とするなど、フレキシブルなものとした。自分の置かれている状況に合わせて研修に参加できるのがよいという声が多い。

（2）研修等の内容の充実

□より効果的な研修プログラム（研修内容・方法・成果等）

長良東小 示範授業の充実（研究授業を示範授業として実施）

<内 容>・本校で実施している研究授業にできるだけ初任者を参加させ、示範授業として学ばせるようにした。

工夫点及び配慮点

◇本校は、学校の性格上、毎月すべての教科等において研究授業を実施している。学習指導案を作成し実施する研究授業は、活動の意義や意味を学ばせるには効果的な場であると考え、初任者には積極的に参観するよう働きかけている。また、この授業参観を校内研修中の示範授業として扱い、参観後は、必ず初任者校内指導員とともに授業研究会を行うようにしている。以下は、本研修後の初任者の振り返りである。

道徳で大切なことは、正解を導くのではなく、子どもたちが自分を見つめ直し考えること。実習などで、道徳が国語のような読み取りの時間になってしまうことが心配でしたが、言葉を根拠に読み取るのではなく、自分の心を根拠に考えを深めるような授業ができるようになりたいと思いました。そのために、自分とつなげて発言する児童を価値付けたり、主人公と同じ経験はあるか、この気持ちはわかるか、など内面に視点をあてた発問を工夫したりしたいです。

4 取組の成果と課題及び2年目となる教員の勤務状況

【成果】

- 「P研修」をはじめ、校内における研修を充実させてきたことで、初任者にとって実践的な力量が高まった。
- 「P研修」によって、3年目までの教員の交流を進めたことで、教員同士の繋がりが深まり、相談したり、協力し合ったりしながら仕事を進めようとする雰囲気が出てきた。
- 「初任者B」については、学級担任をもたせずに7年目の教員が学級担任をしている6年3組に副担任として配属した。その結果、初任者Bは、年間を通して6年3組学級担任の教科指導や学級経営について間近で学ぶことができた。また、最高学年に配属したことで、自分の学級だけでなく、全校の動きや全学年の活動について把握できるようになった。

【課題】

△校内における初任者の研修を充実させてきたが、初任者にとって負担感に繋がっていることも否めないため、研修の時期や時間、内容について、さらに精査していく必要性を感じている。

【平成26年度より継続の指定校：2年目となる教員の勤務状況】

・2年目教員A：

現在、3年2組の学級担任をしている。児童と良好な関係を築きながらよりよい学級経営を進めている。教科指導においては、「自分の動きに自信をもち、進んで運動に取り組む子」という個人研究テーマを立て、体育科指導を中心に実践を深めることができている。11月には「全国体育学習研究協議会 岐阜大会」において、授業者として授業を公開した。

・2年目教員B

現在、特別支援学級の学級担任をしている。児童と温かい人間関係を築くことを重視したり、保護者と連携を密にしたりしながら、きめ細かい学級経営を進めることができている。夏季休業中には、特別支援教育コーディネーターと協力しながら本校職員対象に「特別支援教育研修会」を実施し、全職員の特別支援教育についての理解を深めることができた。

5 添付資料



1 調査研究校の概況

学校名(校長名)	岐阜市立 精華 中学校 (校長：七野 武稔)								
常勤教員数	42人	内：学級担任以外教員数 (20人)							
非常勤講師数	0人	*常勤・非常勤講師共に市費負担職員は含まない。							
学級数	22学級	内：特別支援学級数 (2学級)							
初任者数	2人	内：学級担任でない初任者数 (2人)							
2年目教員数	1人	内：採用前講師経験者 (1人)							
3年目教員数	2人	内：採用前講師経験者 (1人)							
4年目教員数	0人	内：採用前講師経験者 (0人)							
5年目教員数	0人	内：採用前講師経験者 (0人)							
6年目教員数	0人	内：採用前講師経験者 (0人)							
初任者指導教員	初任者指導								
児童生徒数	学級数及び児童生徒数								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
	学級数	7	6	7				1(チ) 1(ジ)	22
	児童生徒数	241	227	241				11	720

2 初任者勤務状況

初任者(年齢・性別)	初任者A (23・女)	初任者B (24・女)
採用前の状況	<input type="checkbox"/> 新規学卒者	<input type="checkbox"/> 既卒者 講師経験あり(1年)
所有免許	中1(英語)・高1(英語)	中1(国語)・高1(国語)
校務分掌	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任ではない →3年副担任	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任ではない →1年副担任
	・給食副主任 ・健康づくり指導部	・生徒会副顧問 ・仲間づくり指導部

3 取組の具体

(1) 初任者研修の実施体制の充実

□初任者の負担軽減の方策

精華中 初任者の意図的な配置（学年所属）

＜所属学年＞ A 【1年目】第1学年（副担）【2年目】第2学年【3年目】第3学年
B 【1年目】第3学年（副担）【2年目】第1学年【3年目】第2学年

工夫点及び配慮点

◇義務教育の出口である第3学年における進路指導を経験させることを意図して、初任の3年間の所属を決定した。

□初任者と2、3年目程度の教員との関わりの持ち方「メンターチームの育成」

精華中 メンターチーム「若手勉強会」

＜メンバー＞1年目～3年目まで及び講師が対象 7人
（内訳：初任者（2人）、2年目（1人）、3年目（2人）、講師（2人））

＜開催日程＞月1回程度

＜内 容＞・宿泊研修や修学旅行、体育祭などの学校行事の学級経営への生かし方などを先輩教師から学んだ。

・全校研究会に向けた模擬授業を若手で行い、意見交換をした。

工夫点及び配慮点

◇校長の呼びかけで3年目教員が中心となって勉強会を開催する。単年度で終わるのではなく、継続的に若手育成のシステムが学校に定着するよう配慮した。

(2) 初任者研修の研修内容等の充実

□年間の研修の在り方

精華中 進路指導の実践から学ぶ（OJT）

＜事 例＞進路指導

＜内 容＞・進路指導に関わる事務

工夫点及び配慮点

◇経験を積むことが必要な進路指導に関わる業務について、事前に十分に内容を説明し、見通しをもって臨めるよう配慮した。

精華中 「信頼関係」を基盤として「相互関係」「協働関係」を構築（OJT）

＜事 例＞学級経営を学ぶ（主に四五行事に関わる学級経営の見通し）

＜内 容＞・ティーチング・カウンセリング・アドバイス・コーチングによる日常的なコミュニケーション

工夫点及び配慮点

◇初任者が担当教員や他の教員との「信頼関係」を基盤として、相互に影響し合い学び合う「相互関係」や組織の一員として連携する「協働関係」へと関係性を深めていくことを目標に研修を進めている。

4 取組の成果、及び2年目となる教員の勤務状況

【成果】

- 二名の初任者研修を校内研修方式で行うことは、十分可能であり有意義である。複数の初任者が存在することによって、お互いに相談をしながら研修を進めたり、業務を行ったりする姿がみられた。初任者という同じ立場の人間がいることが、孤立を防ぎ、共に励まし合える雰囲気をつくっている。
- 本校は毎年初任者を受け入れていることから、初任者が二年目、三年目の教員に相談する姿も多くみられた。特に、メンターチーム「若手勉強会」の開催により、先輩から多くのことを学べた。
- 拠点校方式に比べて校内推進方式は、指導教員が初任者と共に過ごす時間や直接指導する機会が多くあるので、きめ細かな初任者への指導が可能となり、初任者との良好な人間関係構築に寄与した。それが授業力向上に繋がった。
- 初任者に担任をもたせないことによって、初任者は多くの教員の指導方法を垣間見ることができ、様々な学級経営や指導方法を学ぶことができた。また、学んだ様々な指導法を自分なりに模索しながら、来年度の学級経営に生かそうという意欲をもつことができた。

【平成26年度より継続の指定校：2年目となる教員の勤務状況】

今年度は2年生の学級担任として、たいへん意欲的で温かい学級経営を行っている。生徒たちからの信望も厚い。また、全校研究会の公開授業を進んで行うなど、向上心をもって学び続けている。

1 調査研究校の概況

学校名(校長名)	羽島市立 竹鼻小学校 (校長: 花村 重男)								
常勤教員数	38人	内: 学級担任以外教員数 (12人)							
非常勤講師数	3人	*常勤・非常勤講師共に市費負担職員は含まない。							
学級数	26学級	内: 特別支援学級数 (3学級)							
初任者数	2人	内: 学級担任でない初任者数 (1人)							
2年目教員数	0人	内: 採用前講師経験者 (人)							
3年目教員数	2人	内: 採用前講師経験者 (2人)							
4年目教員数	2人	内: 採用前講師経験者 (0人)							
5年目教員数	2人	内: 採用前講師経験者 (0人)							
6年目教員数	0人	内: 採用前講師経験者 (人)							
初任者指導教員	生徒指導主事								
児童生徒数	学級数及び児童生徒数								
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
	学級数	4	4	4	3	4	4	1(フ) 1(ソ) 1(ナ)	26
児童生徒数	117	138	129	120	124	132	3	763	

2 初任者勤務状況

初任者(年齢・性別)	初任者A (23・男)	初任者B (23・女)
採用前の状況	<input type="checkbox"/> 新規学卒者	<input type="checkbox"/> 新規学卒者
所有免許	小1・中1 (社会) 高1 (地理・歴史)	小1・中1 (音楽)・高1 (音楽)
校務分掌	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任 →3年3組担任	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任ではない →4年所属専科
	・児童会整美委員会担当 ・生活委員会	・校務主任 ・児童会園芸委員会担当 ・保安委員会

3 取組の具体

(1) 初任者研修の実施体制の充実

□学校全体で指導する体制の整備の在り方

竹鼻小 初任者が学べる体制づくり（教科の専門性）

<体制>大規模校である利点を生かし、校内の教科スペシャリストから学ぶことができる体制を整える。

- <内容>
- ・校内の教科スペシャリストから教科指導について学んだ。
 - ・授業参観のリハーサルとして模擬授業を行った。
 - ・模擬授業に対して、全職員をチームに分け板書の書き方等を助言した。

工夫点及び配慮点

◇2年目以降自信をもって教科指導に当たることができるように、また、全職員が若手を育てることを通して自らの指導力の向上につなげるように、全職員を巻き込んだ研修体制を管理職がマネジメントした。

◇直採の講師を含めたチームで取り組める体制を整備した。

若手教員育成プロジェクト『プロジェクトW』

目的 ◎計画配置対象者及び講師を中心に、若手教員をチームとして支える。

- ・学校経営や授業指導のノウハウを若手教員に伝える。(伝承する)
- ・教員(社会人)としての「常識」を教える(鍛える)

内容 ◎対象者は、チームのメンバーに指導を求める。

- ・対象者(直採・講師・計画配置)に授業提供をする。(授業を見せる)
- ・対象者の授業を参観する。(授業を指導する)
- ・対象者に声をかける。(人間関係作りを教える)

年度末に総合評価を行い、対象者の成長を確認する。

メンバーは運動会の赤組・白組を基本として編成した。

竹鼻小 「わかたけの会」

<メンバー>20～30代3年目まで 9人(内訳:20代(8人)、30代(1人))

※40代以上の参加も可・・・内容に応じて希望参加

<開催日程>年間6回程度

- <内容>
- | | | |
|-----------|----------------|--------|
| 7月14日(火) | 学び方指導 | 教務主任 |
| 9月28日(月) | 合唱指導 | 山田教頭 |
| 11月20日(金) | 個人懇談の持ち方 | 生徒指導主事 |
| 12月18日(金) | サービス・給与等について | 事務職員 |
| 2月10日(木) | 安全な理科実験・薬品管理 | 石垣教頭 |
| 3月予定 | 38年の教員人生を振り返って | 校長 |
- ・保護者対応(事例を併せその都度指導)

工夫点及び配慮点

◇「わかたけの会」について、校長、教頭2名、教務主任、生徒指導主事、事務職員が専門性を生かして実施する。

◇内容に応じて若手教員に限らず、ベテラン教員も希望参加できるようにしたことで、ベテラン教員からの指導も受けられるようにし、それぞれの自覚と指導力の向上をめざした。

4 取組の成果と課題

【成果】

- 教職員としての基本的な服务内容の理解や勤務に対する心構えが、研修を通して若手教員に身に付いてきた。
- 授業作りの基本や指導方法などについて、模擬授業の検討会等を通して具体的に指導の改善を図ることができた。
- 「プロジェクトW」や「わかたけの会」を通して、ベテラン教職員の指導力の伝達をすることができるとともに若手教員の指導力向上への意欲も高まった。

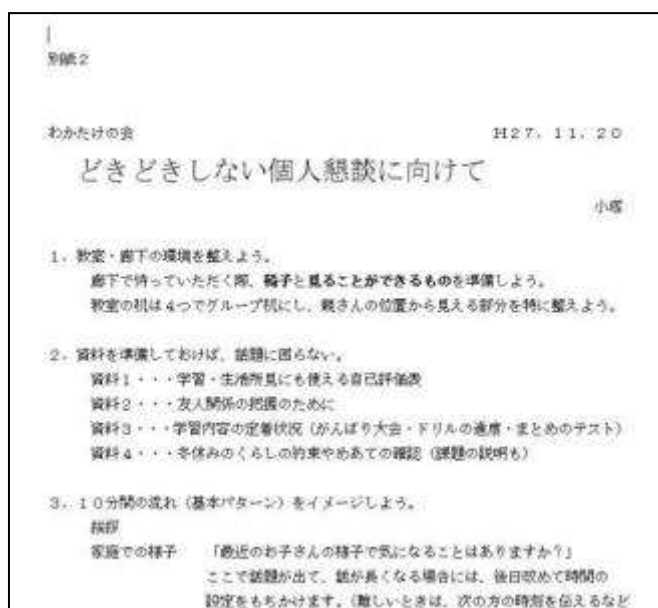
【課題】

- △若手教員同士がより高い教員としての資質を身に付けられるように、お互いが切磋琢磨して高めあえる研修体制を整え、研修のさらなる活発化を図る。
- △研修内容の充実と効率化を進め、教職員の多忙感の解消を図り、短時間で成果のあがる研修を進める。

5 添付資料



わかたけの会指導資料



初任者の感想

- ・初任者として、右も左も分からない中、校長先生をはじめ多くの先生方に悩みや指導方法などを聞くことができる環境が心強かった。(初任者A)
- ・先生方がいつも相談に乗ってくださり、アドバイスを下さったりしたことで「よしっ！もっとがんばろう」という気持ちになりました。(初任者B)

1 調査研究校の概況

学校名(校長名)	羽島市立 中央 小学校 (校長：榎本 喜年)									
常勤教員数	38人	内：学級担任以外教員数 (11 人)								
非常勤講師数	5人	*常勤・非常勤講師共に市費負担職員は含まない。								
学 級 数	27学級	内：特別支援学級数 (2 学級)								
初 任 者 数	2人	内：学級担任でない初任者数 (1 人)								
2年目教員数	2人	内：採用前講師経験者 (0 人)								
3年目教員数	1人	内：採用前講師経験者 (1 人)								
4年目教員数	1人	内：採用前講師経験者 (0 人)								
5年目教員数	4人	内：採用前講師経験者 (2 人)								
6年目教員数	0人	内：採用前講師経験者 (0 人)								
初任者指導教員	校内初任者指導									
児童生徒数	学級数及び児童生徒数									
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計	
	学 級 数	4	4	5	3	5	4	1(チ) 1(ジ)	27	
児童生徒数	118	138	150	115	172	136	3(チ) 4(ジ)	836		

2 初任者勤務状況

初任者(年齢・性別)	初任者A (24・女)	初任者B (28・男)
採用前の状況	<input type="checkbox"/> 既卒者 講師経験あり(1年)	<input type="checkbox"/> 既卒者 講師経験あり(2年)
所有免許	小1・中1(国語)・高1(国語)	小1・中専・高専(国語)
校務分掌	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任ではない →6年4組副担任	<input checked="" type="checkbox"/> 学級担任 →2年4組担任
	・専科 →6年国語一部, 5・6家庭科一部, 4年図工一部 ・情報主任 ・仲間づくり部員	・仲間づくり部員

3 取組の具体

(1) 初任者研修の実施体制の充実

□学校全体で指導する体制の整備の在り方

中央小 全職員で若手を育てる体制づくり

＜体制＞全職員を巻き込んだ体制を整える

＜内容＞・同学年、他学年、教科を問わず、気兼ねなく教科指導等について授業を参観して学ぶ。
・全員が示範授業を行う。

工夫点及び配慮点

- ◇若手教員が目的を明確にもち授業を参観することができるように、全職員に管理職が周知徹底する。
- ◇示範授業を行うことで、若手を育てるという意識をもつとともに、一人一人の教師力向上を目指す。

□初任者の負担軽減の方策

中央小 意図的な初任者の校務分掌

＜校務分掌＞情報主任や児童会担当を分掌する。

工夫点及び配慮点

- ◇全職員に関わりが必要となる情報担当、行事等を通して1年間の流れを理解できる児童会担当というように、全校の職員、子どもとのコミュニケーション力が鍛えられる校務分掌とした。

□初任者と2, 3年目程度の教員との関わりの持ち方「メンターチームの育成」

中央小 「GWの会」(名前の由来:「がんばれ 若手の会」)

＜メンバー＞2校目まで14人(内訳:1校目(9人)、2校目(5人))

※参加したい(意欲がある)職員は参加可

＜開催日程＞不定期(実態や必要な時期に応じて開催)

＜内容＞・服装や電話の対応(例 出張や家庭訪問の際、変身セットの準備、外部に対して上司のことをどのように伝えるか、児童の様子への伝え方 等)
・学級経営(例「学級開き」「後期どういうスタートをきるか」)
・生徒指導(例「教育相談」「問題行動への対応」)
・教科指導等(例「評価・成績について」「道徳の授業」) 等

工夫点及び配慮点

- ◇「GWの会」が適切な時期に、目的に応じた内容となるよう校長の指導のもと、教頭が会を主催するようにした。
- ◇会議等の場で、即質問できなかつたり、実際に取り組もうとしたときに疑問が生じたりすることが考えられるので、気軽な雰囲気の中で学び、交流できるようにした。

中央小 クロス研修（社会科の授業の進め方）

＜メンバー＞GW の会のメンバー ※参加したい（意欲がある）職員は参加可

＜開催日程＞11月20日（金）

- ＜内 容＞
- ・5年目の梅田智敬教諭が、第6学年社会科の自主研を行う。
 - ・そこに、GW の会のメンバーが授業を参観し、研究会にも参加した。
 - ・事前に、梅田教諭から、授業を見る視点について説明を受け、社会科の学習をどのように進めているのかを大まかにつかんでおいた。
 - ・研究会では、積極的に感想・意見を交流し、梅田教諭が教科として、学級経営として大切にしてきたことをつかむようにした。
 - ・ご指導の先生からは、梅田教諭の授業についてのご指導と、社会科の授業の進め方についてのご指導をいただき、自分の社会科の学習の進め方やこれから担任したときの社会科の学習の進め方について見通しをもつことができるようになった。

中央小 クロス研修（第2回学校訪問の授業に向けて）

＜開催日程＞1月22日（金）

- ＜内 容＞
- ・授業立案に関わり、山川智子教諭へ2年目の伊藤絵理教諭と入野真由美教諭、近藤由弥講師が模擬授業から児童の反応や教師の指導援助、板書計画等に対してアドバイスをした。前日には、GW のメンバーが、準備が終わるのを待ち支えようとする姿もあった。
 - ・授業を参観し、放課後に関わった3人の職員とともに反省会をもった。当日の授業の内容、事前の取組、学年の中での山川の関わり方等について、気軽な雰囲気意見交換をした。山川本人はもちろんのこと、3人も多くを学ぶことができよ研修になったと喜んでいる。

中央小 クロス研修（道徳の授業の進め方）

＜開催日程＞2月初旬（予定）

- ＜内 容＞
- ・5年目の岩田尚之教諭、宮田祐嗣教諭が、1月29日（金）のセンター研講座「道徳教育実践力アップ講座～心に響く道徳教育のポイントが分かる！～」に参加した内容について、伝達講習を行う。
 - ・GW の会のメンバーを対象とする。（希望参加もあり）
 - ・日ごろの道徳の授業の実践について交流をする。発問、自己を見つめる部分等課題だと感じている内容について話し合い、道徳の授業の充実を図る。
 - ・後日、資料を選び GW の会で模擬授業を行い、研修で学んだことを確かめることも計画している。

工夫点及び配慮点

◇若手が互いに切磋琢磨しながら、自分磨き・仲間磨きができるように主体的に参加できるような雰囲気を大切にしたい。

（2）初任者研修の研修内容等の充実

□初任者の年間の勤務としての適切な在り方

中央小 担任準備計画

- ＜内 容＞
- ・3学期から、担当学年・学級以外の朝の会や授業の参観を行い、学級経営を学ぶ場を確保する。
 - ・空き時間を利用して、TT として指導を行い、それぞれの担任の指導方法を学ぶことができるようにする。

工夫点及び配慮点

◇全学年を参観する。特に本人が学びたいと感じている担任、それぞれの学年の中の GW のメンバーの学級で学ぶことで、来年度に自分が担任している姿をイメージしながら心構えをもてるようにする。

4 取組の成果と課題及び2年目となる教員の勤務状況

【成果】

- 校務分掌をやりきることを通して、学校全体の動きが分かり、組織の一員として支えていくことの大切さと充実感を味わうことができた。学校の教育目標と学校行事と学級目標をいかにつないでいくかを考え、年間を通してステップを踏んで取り組んでいくことを理解することができた。学年の発達段階に応じた指導について、実際に自分が行うことで、感じ取っていくことができた。
- 学級担任としてほとんどの教科を指導するのではなく、教科担任として複数学級で同じ単元の授業を行うことができるため、授業改善をしながら指導力の向上を図れた。また、学年の発達段階に応じた指導についても考えることができた。
- 拠点校方式の初任者と交流することで、お互いの方式のよさを伝えともに学び合うことができた。
- GWのメンバーがお互いに気軽に話し合うことが日常的にできる雰囲気が生まれ、切磋琢磨しながら、指導についての交流を行うだけでなく、私生活についての相談等もできるようになってきた。



【課題】

- △文科省型のよさについては初任者にも理解してもらうことはできるが、初任研で担任している初任者とどうしても比較してしまっていて、寂しい思いをすることがある。
- △専科・副担任ということで、学年の中でも一歩退いてしまう部分があり、学校としての配慮が必要である。

【平成26年度より継続の指定校：2年目となる教員の勤務状況】

- ・昨年度に文科省型のよさについて理解して、他学年、他学級、他教科の指導について意欲的に学び、今年度の担任としてのスタートがスムーズに切れるようにしていた。
- ・昨年度に学んだことを生かそうと、いろいろな方法で指導の工夫をしている。学級経営についても、優しさと厳しさのバランスを考えながら、一人一人のよさを認めて伸ばそうとしている。保護者との連携も密にできており、保護者からの協力も大きい。
- ・心配なことがあると、学年主任・生徒指導主事・教務主任・教頭等に質問に行き、早く問題を解決して生き生きと生活しようとしている。
- ・今年度の初任者への配慮がいろいろでき、2年目教員としてもう一人の2年目教員とともに、日々、話しかけて、初任者の悩みを聞きながら、アドバイスをすることができている。2校完までの若手職員とも交流しながら、教員生活を楽しもうとしている。

本報告書は、文部科学省の初等中等教育等振興事業委託費による委託事業として、《受託者の名称》が実施した平成27年度「総合的な教師力向上のため調査研究事業」の成果を取りまとめたものです。